

Part 1 基本情報

1. パプアニューギニアプロフィール

- | | |
|------------|--|
| (1) 正式名称 | (和文) パプア・ニューギニア
(英文) Independent State of Papua New Guinea |
| (2) 政体 | 立憲君主制(イギリス国王を国家元首とする) |
| (3) 首都 | ポート・モレスビー |
| (4) 面積 | 46万2000平方km |
| (5) 人口 | 688.8万人(2010年国連推計) |
| (6) 民族 | メラネシア人 |
| (7) 言語 | 公用語: 英語
ほかに共通語としてトクピシン、モツなど |
| (8) 宗教 | キリスト教、伝統宗教 |
| (9) 略史 | 16世紀ポルトガル人、スペイン人がニューギニア島に到達。1884年北東部がドイツ領、南東部がイギリス領となり、のち1906年オーストラリアのパプア領となる。独領ニューギニアは第一次世界大戦時、1914年オーストラリアが占領、1920年にオーストラリアを施政国とする国際連盟の委任統治領となる。1942年、第二次世界大戦で米豪軍と日本軍の戦地。1949年、オーストラリアが旧独領ニューギニアとパプア領を統合してパプアニューギニア領とする。1975年独立。 |
| (10) 在留日本人 | 270人(2011年10月) |
| (11) 気候 | 熱帯性気候に属し、乾季(6-11月)と雨季(12-5月)があり、パプア湾岸は年間降雨量5000mmを記録する多雨地帯となっている。気温は年間を通してほとんど変化がない。首都ポート・モレスビーは例外的にサバンナ気候のため雨量が少なく、比較的過ごしやすい。 |

【参考】「外務省ホームページ-各国・地域情勢」外務省

『最新世界各国要覧 10訂版2000』東京書籍

2. 業務のための基礎データ

(1) JICA事務所の概要

【パプア・ニューギニア事務所 JICA PAPUA NEW GUINEA OFFICE】

住所 : 1st Floor, Pacific Place Building, Musgrave St., Port Moresby, NCD, PAPUA NEW GUINEA

郵便物宛先 : POBox 1660, Port Moresby, N.C.D., PAPUA NEW GUINEA

連絡先 : 国番号 : 675

地域番号 : なし

電話 : +675-321-2677/2098/2684/2686

FAX : +675-321-2679

URL : <http://www.jica.go.jp/png/index.html>

E-mail : pn_oso_rep@jica.go.jp

緊急連絡先電話番号

- ・ 日本大使館: +675-321-1800
- ・ ポート・モレスビー (各地域によって番号が異なるため要確認)
警察: 000

消防: 325-5188/321-3658

救急車: 323-4400(Pacific International Hospital)/325-6822(St.Johns救急サービス)

執務時間 : 8:30-16:30(昼休み12:00-13:00)

休日 : 「(3)官公庁の祝日」に準じる。

事務所までの交通 :

【空港から】

空港から市内までは約10km、所要時間は15～20分程度、レンタカー、リムジン送迎サービスがある。ホテルの送迎バスは無料であり、レンタカーは運転手付きで約500キナ/1日。リムジン送迎サービスは空港内に事務所のあるPNG Limousine Service で片道50キナ/1人から。いずれも事前予約をすることを勧める。治安上の理由から、空港前のタクシーの利用は避けたいほうがよい。また、PMVと呼ばれる乗合バスは絶対に利用しないこと。

【空港以外から】

レンタカーの利用を勧める。レンタカーはAvis、Budget、Hertz、など大手フランチャイズが存在し海外からの予約も可能。

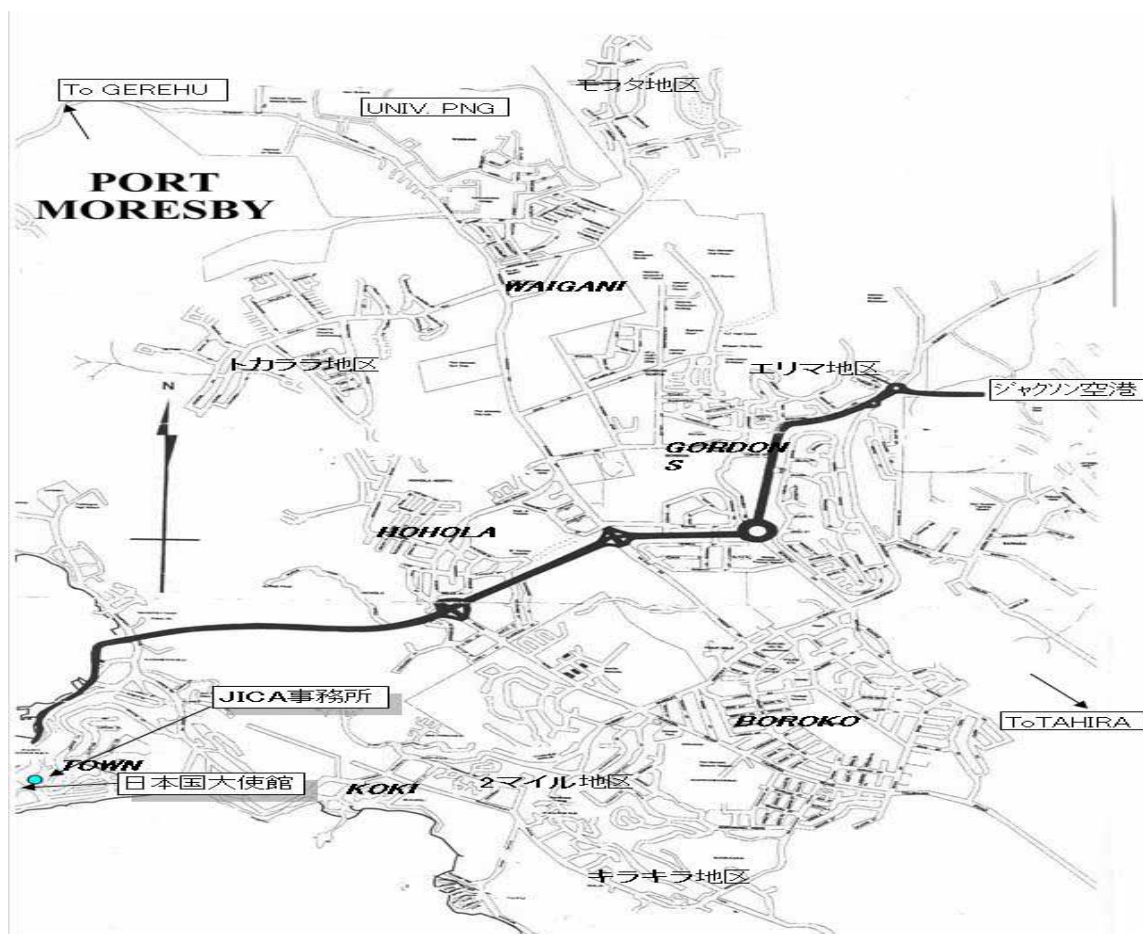
< レンタカー >

Avis 電話: +675-325-8299 URL: <http://www.avis.com.pg/>

Budget 電話: +675-325-7853

Hertz 電話: +675-302-6888

(2) JICA事務所周辺地図 (<http://www.jica.go.jp/png/office/about/index.html> も参照。)



(3) 日本との時差 : +1時間。
サマータイム : なし。

(4) 祝日、官公庁 の休日	祝日:	1月1日	New Year Holiday	J/P
		1月2日	New Year Holiday	J
		1月3日	New Year Holiday	J
		2月11日	National Foundation Day	J
		4月22日	Good Friday	P
		4月23日	Easter Saturday	P
		4月25日	Easter Monday	P
		5月3日	Constitution Memorial Day	J
		5月5日	Children's Day	J
		6月13日	Queen's Birthday	P
		7月18日	Sea Day	J
		7月23日	National Remembrance Day	P
		8月26日	National Day of Repentance	P
		9月16日	Independence Day	P
		9月19日	Respect for the Aged Day	J
		10月10日	Sports Day	J
		12月23日	Emperor's Birthday	P
		12月25日	Christmas Day	P
		12月26日	Boxing Day	P
		12月29日	Year End Holiday	J
		12月30日	Year End Holiday	J
		12月31日	Year End Holiday	J

(2011年)

注: J—日本の休日、P—パプア・ニューギニアの休日

調査団の派遣を避けるべき時期

1) 4月のイースターの週

2) クリスマス休暇が始まる12月中旬頃から1月中旬まで

(パプア・ニューギニアでは、イースター、クリスマス前後は1週間近く休む。)

この時期は政府機関および民間も留守要員のみとなり、事務処理機能が停滞するため、派遣には慎重な時期設定が必要。

官公庁の休日 : 祝日(上記P印のみ)と土曜日、日曜日

(5) ビジネスアワー
官庁 : 07:45 16:06
銀行 : 09:00 15:00

商店 : 08:00 19:30

- (6) 言語 業務 : 一般的に英語が通用する。
ホテル、買い物、食事 : 一般的に英語が通用する。
- (7) 通貨 現地通貨単位 : キナ(Kina)。100分の1キナはトヤ(Toea)
- (8) 通貨レート 1キナ = 35.06円(2011年10月31日付)
1キナ = 0.4628米ドル(2011年10月31日付)
最新の為替レートは、以下のサイトで確認のこと。
<http://www.Bloomberg.co.jp/analysis/calculators/currency.html>
(「ブルームバーグ 為替レート計算」)
- (9) 関係機関 【在外日本関係機関】
●在パプア・ニューギニア日本大使館
住所 : 1st & 2nd Floor, Cuthbertson House, Cuthbertson St. Port Moresby, NCD, Papua
New Guinea
電話 : (675) 321-1800, 321-1483, 321-1305
FAX : (675) 321-4868
在パプア・ニューギニア大使館は、在ソロモン大使館を兼轄する。
【在ポート・モレスビー総領事館】
事務所は、在パプア・ニューギニア大使館と同じ
- (10) 有用サイト <http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/png/> (外務省「各国・地域情勢」)
<http://www.mofa.go.jp/mofaj/toko/index.html> (外務省「渡航関連情報」)

Part 2 生活情報

「生活情報」は特に記載のない限りJICA事務所がある都市の情報を中心に掲載しています。

1. ホテル、住宅



1-1 ホテル

首都、地方とも割高で、最近が高騰が著しい。よく利用される首都のホテルで、シングル1泊約680～900キナ(1キナ-約36円、2011年10月現在)、地方のホテルでも約200～600キナの値段となっている。

主なホテルは次のとおりである(詳細はイエローページを参照)。いずれもバスルーム、トイレ、エアコン、テレビ、冷蔵庫などの設備が備わっている。

治安上の理由から、原則としてポート・モレスビーではEla Beach Hotel、Gateway Hotel、またはLamana Hotelを、主要地方都市では下記のホテルがよく利用される。その他の都市では利用実績のあるホテルを中心に利用している。

Yellow Page

【ポート・モレスビー】

- ・Crowne Plaza Hotel
- ・Holiday Inn
- ・Airways Hotel
- ・Ela Beach Hotel
- ・Lamana Hotel
- ・Gateway Hotel
- ・Comfort Inn



Crowne Plaza Hotel



Holiday Inn

【レイ】

- ・Lae International Hotel
- ・Melanesian Hotel
- ・Lae Travellers Inn
- ・Miles Lodge

【ラバウル/ココポ】

- ・Kokopo Village Resort Hotel
- ・Kokopo Beach Bangalow

【マダン】

- ・Madang Resort Hotel
- ・Coast Watchers Hotel
- ・Madang Lodge

【ゴロカ】

- ・Bird of Paradise Hotel
- ・Pacific Gardens Hotel

【マウント・ハーゲン】

- ・Highlander Hotel

- ・Hotel Poroman
【ウェワク】
- ・Paradise New Wewak Hotel
- ・In Wewak Boutique Hotel
- ・Windjammer Beach Motel

1-2 住宅事情

首都ポート・モレスビーでは、主に外国人ビジネスマンを対象にした安全で高額な賃貸住宅物件数は比較的增加傾向にあるものの、需要と供給とのアンバランスから、数年来貸し手優位の状況は変わらず、家賃は非常に高額である(月額家賃-約30万円～)。

住宅は、日本大使館、JICA事務所のあるタウン地区、あるいは中央郵便局や商店街のあるボロコ地区に多く、関係者もこれらの地区の集合住宅に居住している。一戸建て住宅もあるが、安全対策上好ましくないため、警備体制の整った集合住宅を推奨している。

地方都市では外国人向け住宅の物件数は少なく、選択の幅は限られる。下宿形式の住居は提供されていない。



専門家の住居例(集合住宅、タウン地区)

1-3 住宅の探し方

不動産会社を利用し、適切な物件の紹介を受ける方法が最も多く取られる。

よく利用される不動産会社は下記に示すように比較的大手ではあるがその数は限られる。また、契約実績はあるものの、契約時の対応や住居の保守対応が遅いなどの問題が多く、あまりサービスが行き届いていないことを認識しておく必要がある。

< 不動産会社 >

- ・Credit Corporation
- ・Strickland
- ・Century 21
- ・Nambawan Super Limited
- ・Professionals
- ・DAC Real Estate
- ・L. J. Hooker

1-4 住宅選定上の留意点

特に留意すべきは、地域、安全性、家賃等であるが、これらすべてが満たされることはまれである。当国では、安全対策の見地から、防犯設備の強度(鉄格子の設置具合、施錠数など)や周辺の治安環境(不法居住者地域近辺等)を最優先とし、停電、断水時の備えの有無も確認したほうがよい。

< 地域 >

ポート・モレスビーにおいて、関係者が多く住む地域は、タウン地区、ボロコ地

区であり、他の地域に比べ家賃は割高である。なお、学齢期の子供のいる家庭では、幼稚園、学校との位置関係を考慮する必要がある。

< 物件 >

ポート・モレスビーの住宅は、独立家屋(一戸建て)、集合住宅(アパート)に分類することができる。一般に、マンション型あるいはタウンハウス型の外国人向け集合住宅の多くは、24時間警備員が配置され、門の開け閉めを厳しく管理しているが、なかには機能していないものがあるので注意すること。給水タンク、停電時用大型発電機のほか、プールなどを備えた物件が多く、快適性は高い。

家具付き物件では生活に必要な家具と電化製品のほとんどが揃っている。また、ケーブルテレビが配線されているところが多い。新規に電話回線を引くには TELIKOM PNG LIMITEDにて新設手続きが必要。

間取りは3ベッドルーム、2ベッドルームタイプが大半を占め、ワンルームタイプは数少ない。ドアには、インターホン、錠前、ドアスコープ、ドアチェーン、かんぬき錠、呼び鈴などが必要であり、その有無を確認すること。

入居前に設備に不具合がないか、家具付きの場合は壊れていないか、家主立ち会いのもと、実際に確認したほうがよい。

車を所有する場合は、専用の駐車場あるいは車庫の有無を確認すること。一時帰国や旅行などで長期間留守にする間、安全に車を保管しておく場所が必要である。

あわせて水や電気、ガスの供給状況、冷房設備も重要なポイントとして挙げられる。これらの条件が満たされた上で、建物の外観・内装、付帯設備、眺望などの条件を考慮することが肝要である。

< 家主 >

突然の家賃値上げを要求してきたり、設備や備品の修理に誠実に対応してくれなかったりする家主も時々見受けられる。信頼のおける不動産会社を選び、契約前に契約書を熟読し確認する必要がある。

1-5 住宅の契約

家具、冷蔵庫、洗濯機、電気(ガス)コンロ・オーブンなどはすべて備え付けの物件がほとんどであるが、契約時には、契約期間、契約金額、付帯設備のほか、契約更改時の家賃値上げ率、敷金・契約書作成料の有無、設備補修が家主側負担であるかどうかなどについて確認することが必要となる。

家具付きの住居の場合、家賃に家具の使用料も含まれているのが一般的だが、確認しておくこと。また、修理すべき箇所があれば、入居前にその費用の負担を確認しておく必要がある。家賃の支払いは、小切手、銀行振り込み、あるいは家主に現金で払うのが一般的である

契約時には、1ヶ月の家賃分を保証金(日本での敷金と同等)として求められる。保証金は原則として退去時に返金されるが、契約時にはこれを含めて2か月分の家賃を用意しておかなければならないことに留意する必要がある。

住居が不足気味で、比較的物価上昇率が高いため、契約を更新する際には5%から15%ほどの家賃の値上げが要求されてきている。したがって、次年度に約1割の値上げを見込んだ上で初回の契約を結ぶ必要がある。

1-6 ガス、水道などの手続きと管理

電気、電話については入居時に各自申し込むのが通例であるが、物件によっては、電気代は家主に支払うところもある。水道料金は家賃に含まれていることが多い。

電話の開設はTELIKOM PNG Limitedに申請するが、開設までには最低2～3週間、数ヶ月はかかることも珍しくない。料金は60キナで、外国人の場合は、さらにデポジットの300キナが必要である。早く開設するためにはあらかじめ何度も督促することである。前任者の住居を引き継ぐ場合は電話番号も引き継ぐことが可能であり、入居と同時に利用可能となる。

電話料金の請求書は前の月に支払ったものが翌月も請求されることもある。前月の領収書と照らし合わせ、重複している場合はこれを支払いカウンターで提示し、差額のみを支払う。なお電気料金も同様である。ガスは特定の業者にプロパンガスボンベを配達してもらうこともあり、電話で問い合わせしてから手続きを行うことになる。

ゴミに関しては、たいていアパートメントごとにダストシュートもしくは共同のゴミ捨て場があり、そこにいつでも捨てられる。ゴミ収集代は支払う必要はない。ゴミの分別収集はなされていない。

1-7 家電

(1) 電圧

電圧と周波数は240V、50Hzである(220V対応の電化製品も使用可能)。

日本仕様の家電製品を利用する場合は、変圧器(入力240V、出力100V、110V型ステップダウントランスフォーマー)が必要である。変圧器は現地では入手が難しいため、必要個数を日本で購入する必要がある。

(2) コンセント、モジュージャックの形

コンセントはオーストラリア型(ハの字型)プラグ仕様である。ポート・モレスビーなどの大きな都市ではアダプターを購入できる。

モジュラーはオーストラリアタイプであるが、日本と同じモジュージャック(RJ-11)やRJ-12が使える場合もある。ローゼット型も一部見られる。



コンセントとプラグ



電話モジュラー

(3)家電製品

ポート・モレスビー、レイなどの主要な都市では、大部分の家電製品を揃えることができる。ただし、パプアニューギニア(オーストラリアも含む)で販売されているビデオカメラは、パプアニューギニアはPAL方式で、このビデオカメラで撮影したビデオテープは日本で再生できないために、日本で再生するためのビデオカメラが必要な場合は日本から持参したほうがよい。テレビ、ビデオデッキは、現地で日本からのテープを再生できるマルチタイプが販売されているので、特に日本から持参する必要性はない。

現地で入手可能なものはいわゆる「白物家電」一般で、持参したほうがよいもの(必要ならば)として、炊飯器(日本仕様)、布団乾燥機、除湿機、ズボンプレスなどが上げられる。パソコンは現地でも入手可能だが、日本語のソフトを持参する必要がある。

1-8 家具保険

火災については、通常賃貸契約に保険に関する項目が含まれている。

1-9 その他

高級ホテル・住居は一定レベル以上の治安対策、防犯対策をとっているため、なるべくハイクラスのホテル、住居を選ぶことが望まれる。これに対して、安価な物件は治安上リスクが高いことを認識しておく必要がある。

2. 衣料、理容



2-1 衣料全般

(1)一般事情

衣料全般に品質、デザイン等にこだわらなければ、現地での購入は可能であるが、品数は少ない。一般的にオーストラリア製(寝具類は多いが衣料品は少ない)の品質はよいが、値段が高く、中国製(寝具から衣料全般あり)の品質はあまりよくないが安価である。他のアジア諸国からの輸入品も見られるようになってきているが割高である。セカンドハンドショップが数店あり、時間をかければ掘り出し物も期待できるが、サイズや品質管理はされていない。素材については、沿岸部を中心に全般的に高温多湿のため、綿とポリエステル混紡、麻などの生地を選ぶとよい。なお、山岳地帯は冷涼であり、これらの地域に赴任、旅行をする場合は長袖および上着も必要である。靴については、サンダル類以外の運動靴や仕事用の靴は入手困難である。

(2)日本から持参したほうがよい衣料

下着、靴下、靴、ワイシャツ類等通勤用衣料、水着、子ども用衣料は品質やサイズが日本人に合わない場合も多いため、持参することを勧める。寝具については、良い品質のタオルケットは入手困難であるため必要な場合は持参したほうが良い。その他、長袖の衣料および一般的なフォーマルな装い。

(3) 現地で調達したほうがよい衣料

Tシャツ、平べったいゴムぞうりは安い。枕および枕カバー、ベッドシート、タオルは中国製のものが豊富に揃っているほか、オーストラリア製品などもある。クラフトマーケットとよばれる野外市場が定期的開催されるので、装飾品のほか女性用の簡単なブラウス等はそこで購入してもよい。

(4) その他の留意点

防犯上、一見して高価な装飾品等の持参は最低限にとどめることが勧められる。山岳部では、防寒衣料が必要となる。

2-2 礼装

(1) パーティー

公式(トロピカル・フォーマル)のレセプションでは、男性は長袖のワイシャツ、ネクタイ、長ズボン、女性はワンピース(またはロングドレス)を着用する。

非公式(インフォーマル)の場合、男性はワイシャツ(またはバティック等南洋風デザインのシャツ)、ノーネクタイ、女性はワンピースの着用が一般的である。和服は特に必要ない。

パーティーだからといってあまり華美な服装をする必要はない。

(2) 式典

トロピカル・フォーマルがふつうであり、フォーマル(背広着用)は大臣クラスが主催する式典のみである。

(3) 冠婚葬祭

都市部の冠婚葬祭のほとんどは教会で行われる。トロピカル・フォーマルの服装で、祝礼状(お悔やみ状)と結婚祝品、花束などを持って参加する。

葬祭では、黒いズボン(暗い色)と白いシャツ、ネクタイといった服装がよい。

(4) その他の留意点

文化交流などに興味があれば、浴衣、着物、袴などを用意し、特別な時に着用するのもよい。パプアニューギニア人やオーストラリア人などは、着物など日本の文化に大変興味を持っている。

2-3 洗濯、仕立て、修繕、保管

(1) 洗濯

クリーニング店は数軒あるが、少々割高である。和服やシルクなどの高級品やデリケートなものをクリーニングに出すのは避けたほうがよい。電気洗濯機、アイロン、アイロン台、洗剤、塩素系漂白剤、柔軟剤は容易に入手できる。また、一般に家具付きの住宅では全自動式の電気洗濯機が備わっている場合が多い。

(2) 仕立て、修繕

技術レベルは高いとはいえない。値段は張るが、カーテンなどの室内装飾品は満足のいくものを作ってもらえる。布は各スーパーの他、Luk Poiwai(ゴードン

Brian Bell裏)で購入可能。いずれも輸入品。

(3)保管

衣類(ネクタイ含む)、革製品などは、雨季の間にカビが生えやすいため、乾燥剤を持参するとよい。洋服ダンスなどに置く除湿剤・除虫剤などの製品は入手可能であるが高価である。

2-4 美容院、理髪店

中国系、フィリピン系の人々が経営する店など、理髪店、美容院は数軒あり、値段、質ともますますである。

カットのみは約30キナから、カット&シャンプー & ブローは約40キナ以上、カット&パーマは約100キナである。

3. チップ



3-1 チップ事情

(1)習慣の有無

チップの習慣はない。

(2)各種サービスに対するチップ

チップの習慣は特にないが、特別に何か用事を頼んだ場合のチップは、内容にもよるが1.00～3.00キナ程度である。

超一流ホテルでは、重量のあるスーツケース1つあたり2キナ程度(最小額紙幣1枚分)をボーイに渡す場合もある。

レストランでのチップは不要である。

4. 食生活



4-1 外食

(1)一般事情

ポート・モレスビー市内にはホテルに併設しているレストラン(主に洋食)を含め、日本料理店2軒、西洋料理店約10軒、中国料理店約10軒がある。レストランは、昼食時と午後6時頃から10時頃まで営業している。大きな店ではAmerican Express、MasterCard、VISA Cardを中心にクレジットカードが使えるが、予約を兼ねて電話で確認したほうがよい。また、中国料理店のほとんどはテイクアウトのみのオーダーも可能である。電話で予約してからとりに行くとよい。レストランでのチップは不要である。一方、地方ではレストランの数が少なく、場所によっては州都であってもホテル以外にはレストランのない地域もある。

(2)飲食店

ホテルでは、buffet(ビュッフェ:とり放題)タイプの食事も用意されており、値段も40キナほどで手軽である。レストランでは、お昼はランチメニュー(ご飯と1品)を用意している店もあり、飲み物込みで20キナ以内である。夕食は、50キナから100キナ程度でかなり満足のいく食事ができる。すべてのレストランで、ビー

ル(地元銘柄のみ)やワイン(オーストラリア産)、洋酒(種類が限定されている)などを揃えている。また、中国料理店では、週末の昼のみ飲茶があり、オーストラリア資本のファストフード店(フライドチキン・チェーン)では、パーティー用に、フライドチキン、ポテトフライなどのテイクアウトも可能。

レストランのほかに現地の人が利用するカイバー(Kai Bar)という屋台(店舗などに付属しているファストフード)があり安いのが、衛生上問題のある店も多く、あまり勧められない。

喫茶店はあまりなく、一般的ではないが、ホテルにはコーヒーショップあり。

ポート・モレスビー市内にある主なレストランは以下のとおりである。

- Asia Aromas(中国料理・タイ料理)
- Rick Shaw's Restaurant(中国料理)
- Pheonix Restaurant(中国料理)
- Daikoku Restaurant(日本料理)
- Ten(日本料理)
- Royal Papua Yacht Club(洋食)
- Beachside Brasserie(ピザ、洋食)
- Airways Hotel Bacchus Restaurant(洋食)

Yellow Page

4-2 食料

(1) 一般事情

日本食材は、品目や入手状況に制限はあるものの一応入手可能である(詳細については後述)。中国を初めアジア諸国からの輸入品も多い。野菜や肉類については、国内産もあるが、オーストラリアからの輸入品も多い。

(2) 主な食品の出回り状況

牛肉は日本で買うよりもかなり安く、パプアニューギニア産またはオーストラリア・ニュージーランド産のものが入手可能である。魚もスーパーマーケット、ローカルマーケットで購入可能である。野菜はたいいていのもが出回っている。米はオーストラリア産のジャポニカ米、インディカ米、タイ米および中国産のもち米が入手できる。

(3) 食料の入手

食料品の多くは、Boroko(ボロコ)、Town(タウン)、Taurama(タウラマ)、Gordons(ゴードンズ)付近のスーパーマーケットで入手できる。ただし、ローカルマーケットよりも少々割高である。

< 野菜 >

コキ、マヌアタポートなどのローカルマーケットなどで、新鮮で安いものが入手できるが、スリ、かっぱらい、強盗には要注意である(ゴードンズ・ローカルマーケットは危険。買い物は控えた方がよい)。

タマネギ、ジャガイモ、ニンジン、キャベツ、カリフラワー、ブロッコリー、レタス、マッシュルーム、トマト、ピーマン、もやし、ネギ、カボチャ、サツマイモ、ナス、キュウ

ウリ、白菜、オレンジ、リンゴ、レモン、バナナ、パイナップル、レタスなどは、一年中手に入るが、必ずしも常時あるとは限らない。

季節によっては、ブドウ、ナシ、パイナップル、パッションフルーツ、キウイ、マンゴー、スイカ、大根、ニラなども手に入る。

<日本食品>

しょうゆ、みそ、だしの素、みりん、「味の素」、そうめん、うどん、そば、豆腐、ノリ、ソース、とんかつソース、すし酢、酢、ごま油、ラー油、カレー粉、わさび、てんぷら粉、あられ、大豆、小豆などは入手できる。

ものによっては出回らない時期や有効期限が切れている品もあり、値段も非常に高い。赴任時に持参するか、または任国外旅行などで購入するのが望ましい。ただし、日本食の多くは検疫上没収対象となっているので注意すること。

<酒類>

スーパーマーケットの一角に酒類のコーナー(Bottle Shop)が設けられ、ビール、オーストラリア製ワイン、ウイスキー、シャンペン、ブランデーなどが入手できる。特にワインはオーストラリア産がほとんどながら、品揃えが豊富である。また、店によっては日本酒や梅酒を置いていることもある。

酒類は、地域により販売日の制限がある。ポート・モレスビーでは、月～土曜日に販売される。また、連休、祝日、選挙などの時期には、州政府が独自に酒類禁止を決定し販売がストップすることもあるので、連休中の酒類購入には注意が必要。

日本人がよく利用するスーパーマーケットは以下のとおりである。



- | | |
|--------------------------|------------------|
| ■Supar Value Store (SVS) | ■R.H.Hypermarket |
| ■Boroko Food World | ■Papindo |
| ■Stop'n Shop | ■J Mart |
| ■Vision City | |

4-3 食器、調理器具

(1) 食器、調理器具などの入手

たいいていの食器や調理器具は容易に購入することができる。洋食用食器に関しては、デザインなどにさほどこだわらなければ入手可能である。日本の食器は持参するか、前任者から買うか、あるいはシンガポール、オーストラリアなどで購入する。中国食器は容易に入手可能。

包丁、ナイフは各種揃うが、フランス製、ブラジル製、アルゼンチン製、中国製は非常に切れ味が悪く、すぐに鈍ってしまうため、日本から持参したほうがよい。また、砥石は入手不可能である。その他ほとんどの調理器具において、中国製、オーストラリア製の製品が購入可能である。

ポート・モレスビーでは、ボロコ商店街のBrian Bell Plaza(ブライアン・ベル・プラザ)またはゴードンのBrian Bell Home Center(ブライアン・ベル・ホームセンター)は品揃えが豊富である。

(2) 日本から持参したほうがよい食器、調理器具

炊飯器(日本仕様)、おろし金、すり鉢(中国製の石、木製あり)、各種和風包丁、和食器(漆器、茶碗、お碗、急須、湯飲み、はし、菜ばしなど)などは持参したほうがよい(漆器を除きすべて入手は可能だが、値段の割に品質が劣るものが多いため)。包丁の砥石もあと便利。

5. 生活用品の購入



5-1 家電製品

家電製品が購入できる店にはCourts、Brian Bell Plaza(ブライアン・ベル・プラザ)、Brian Bell Home Center、C.H.Mがあり、ひとつおりのものはここで揃えられる。

5-2 家具

長期滞在者用ホテルや借り上げ住宅には、通常、ベッド、食器棚、洋服ダンス、テーブル、イス、ソファなどの家具が備わっている。それ以外の書斎用机、本棚、子供用ベッド、子供用学習机などは、上記CourtsおよびBrian Bell、さらに一部はTheodistで入手可能である。

5-3 日用品、雑貨

トイレトーパー、ティッシュペーパー、石鹸、シャンプー、バスルーム用小物、タオル、洗濯用洗剤、食器用ふきん、殺虫剤などのたいいていの日用品や雑貨は、スーパーマーケット、ショッピングセンターやBrian Bellで入手可能である。文具に関しては大体のものはあるが、種類が少なく品質もあまり良くないので、使いやすい文具があれば日本から持ってくるとよい。

5-4 工具、素材

工具や園芸用品、大工用品、大工用素材などはBrian Bellもしくはボロコ地域の商店で入手できるが、販売店および品数は限られている。

このほかにピショップ・ブラザーズ、カーペンター・ハードウェア、スチームシップ・ハードウェアなどの専門店もある。

上記では小型電動工具から中型木工機械、溶接機、コンプレッサー、塗装用具までひとつ揃う。手工具も入手可能であり、ドライバー、ノコギリ、カンナ、ノミ類、計器類まで揃う。しかし、ノコギリ、カンナ類は使用方法が日本とは逆または形状が異なるので使いづらい。砥石類は非常に少なく、あってもかなり目の荒いものだけである。

6. 金融機関



Yellow Page

6-1 金融機関

(1) 銀行

中央銀行(Bank of Papua New Guinea)のほか、民間ではオーストラリア系の銀行3社(Westpac、ANZ、Bank of South Pacific)、マレーシア系1社(May Bank)があるほか、ローンおよび投資関係の金融機関も数社ある(各銀行の詳細はイエローページを参照)。

銀行口座は、関係者では当地のANZ銀行に米ドル/キナ建ての口座を開設し、滞在費の送金先として利用する場合と、ニューヨークの東京三菱UFJ銀行信託会社にドル口座を開設し、さらに当地のANZ銀行に開設した現地通貨口座に必要額を振り込む形をとっている。振り込みは、FAXによる送金依頼と、東京三菱UFJ銀行信託会社から送付されるドル小切手による入金がともに可能であり、現地銀行口座にはドルから現地通貨に換算された額が振り込まれる。ただし、FAXによる送金依頼は、手数料がかかる上、送金先口座を登録していない場合、東京三菱UFJ銀行信託会社から振り込み確認の問い合わせの電話があるなど手続きに時間がかかるため、手続きも簡素で手数料がかからないドル小切手による振り込みが一般的である。

首都ポート・モレスビーで関係者が主に利用している銀行はANZ Bankであるが、地方では各地に支店があり利用可能な銀行で口座開設となる。首都ポート・モレスビーでは、ANZ、Westpac、Bank of South Pacific各銀行内にATMが設置されており、大規模なスーパーマーケットの店外や空港、高級ホテルにもATMが設置されている。なお、外付けATMでの現金の引き出しは、強盗犯罪の多いパプアニューギニアでは避けるべきである。

また、口座開設の際に現地銀行で発行されるデビットカードは、ATMでの現金引き出しのほか、買い物、飲食、航空券、レンタカー、ホテル料金などの支払いが可能で、大金を持ち歩かずに済むので便利である。ただし、小売業店舗のなかにはカードを受け付けていないところもあるので、確認が必要である。

このほか、大手スーパーマーケットでの支払い時に、購入金額に比例した少額の現金引き出しが可能である(100キナ程度まで)。なお、カードの1日の現金引き出し限度額は1,000キナとなっている。それ以上の金額の支払いは銀行で発行している小切手の利用が一般的である。

(2) 口座の開設と閉鎖

利用頻度の高い口座の種類は当座預金口座で、口座開設時にチェックブック(小切手帳)とデビットカードの発行を申請するのが通例である。口座開設にあたっては、身分証明となるパスポートと初回入金用の100キナ程度が必要で、開設のための申請用紙に必要事項を記入、署名をすることになる。チェックブックとカードを受け取るには、申請時に受け取った引換証を持って再度銀行を訪ねなければならない。通常、チェックブックは1週間、カードは約2週間で発行されるが、場合によっては数週間から数カ月かかることもある。銀行から連絡はなく、そのまま引き取りに行かずにいると破棄される場合があるので、注意が必要である。

口座の閉鎖は、所定の用紙にサインするだけでよい。その前に振り出し小切手が口座から引き落されているかチェックすること。残額は、海外への持ち出しが可能であるが、1人年間5万キナまでとなっており、それ以上の額は税務局 (Internal Revenue Commission) からの許可を得る必要がある。

(3) 小切手

パプアニューギニアでは、小切手が、公共料金、家賃の支払い、航空券の購入、スーパーマーケット、家具・家電用品店といった大型店舗などでの支払いに利用されている。ただし、飲食店その他の小売業店舗では小切手を受け付けていないところもあるので、確認が必要となる。小切手の作成は、現地銀行での口座開設時に申請するとよい。

(4) 換金方法

主要な外貨とT/Cの換金が、空港換金窓口、銀行、大手ホテルで可能である。外貨は、米ドル、オーストラリア・ドルがスムーズに換金できるのに対し、日本円などはPNGキナとの取引自体が限られているため、受け付けてもらえない場合がある。

外貨の換金率は一般的に悪く、ホテルは銀行よりもさらに率が悪い。防犯上の理由からも、現金よりもT/Cの持ち込みが望ましい。

地方の銀行では、外貨の取り扱いをしていない可能性があり、換金は主要都市の銀行であらかじめ済ませておくほうが無難である。

オーストラリアの空港や銀行、市中の換金所では、キナとオーストラリア・ドルとの換金は可能であるが、1回に500キナまでと上限が定められている。

なお、日本でご利用中の銀行カードで“Plus”マークがついているものであれば、当地の銀行ATMでCashの引き出しが可能である。

6-2 クレジットカード

クレジットカードは、VISA、MasterCard、American Express、Dinersなどがホテルや旅行代理店、大手店舗、一部の小売業店舗などで利用可能である。VISAは当地の銀行でも比較的簡単に取得できる。

現金の引き出しは、VISA、MasterCardがANZ BankのATMで利用可能である。JCBはまったく通用しないので注意のこと。

7. 交通事情



7-1 交通手段

(1) 一般事情

ポート・モレスビー市内、レイ市内、ハイランド地方と一部の近距離間を除き、全土を結ぶ道路交通網は整備されていない。都市部でも日本人の利用に適した公共交通機関はほとんどないため、自動車



国内線主力機

は必需品である。都市から都市への移動は飛行機となる。主要都市へは航空機が利用できるが、ポート・モレスビー以外は有視界飛行が基本で、天候や機材故障による遅延、キャンセルも多い。

< 航空 >

国内線は、ニューギニア航空(Air Niugini)が全国の主要箇所(アロタウ、ブカ、ゴロカ、ホスキンス、ケビエン、レイ、リヒルアイランド、マダン、マヌスアイランド、メンティ、マウント・ハーゲン、ポポンテッタ、ラバウル、タブビル、タリ、ヴァニモ、ウェワク)とポート・モレスビー間を運航している。エアラインPNG航空(Airlines PNG)も全国の主要箇所(アロタウ、アワバ、バイムル、バリモ、ボセット、プロロ、ダル、エフォギ、ファネ、ゴロカ、イトカマ、カギ、ケレマ、キコリ、キウंगा、ココダ、レイ、レイク・ムレイ、ロスミア、マナリ、ミレイ、ミシマ、モロ、マウント・ハーゲン、オボ、オノンゲ、ポポンテッタ、サセレメ、スキ、タブビル、タビニ、トゥフィ、ワボ、ワニゲラ、ウィピム、ウォイタペタリ)とポート・モレスビー間を運航している。ニューギニア航空の就航数のほうがエアラインPNG航空のそれより多い。

ニューギニア航空(Air Niugini) : <http://www.airniugini.com.pg/>

エアラインPNG航空(Airlines PNG) : <http://www.apng.com/>

(2) 空港から市内への移動

できるだけリムジンサービス、ホテルの送迎バス、運転手付きレンタカーを利用する。タクシーはあまり勧められない。

タクシーを使う場合は、メーターの有無にかかわらず、乗車前に料金の交渉をする必要がある。運転手は英語が通じるので、コミュニケーション上の問題は無い。料金の目安は空港からホリデイ・イン・ホテルまで、またJICA事務所のある、タウン地区にあるクラウンプラザ・ホテルまでが40キナ程度である。主要ホテルはホテル～空港間の送迎サービスを行っている。流しのタクシーの中には法外な料金をふっかけてくるドライバーがいるので、自らタクシー会社へ電話して無線タクシー呼ぶ方が安全で確実。中にはたちの悪い運転手がいて、メーターを動かさない、メーター自体がいい加減な場合があるので注意を要する。白タクといわれるナンバープレートが“T”ではじまらないタクシーは安全性の面から利用しない。

(3) 自家用車を利用する場合

ポート・モレスビー市内の交通事情は、自動車台数の増加にともない悪化しており、交通事故はあとを絶たない。運転マナーは公共バス(通称PMV)の運転手を含めて良いとは言い難い。

舗装状況は悪く、メンテナンスがいき届いていないことから、ところどころに穴があいたままになっている。雨季には、低い地形にある道路が水浸しになり、道路状況が極めて悪くなるため、注意が必要である。特に地方では舗装されていない道路が多いので、車両の購入にあたっては、大型四駆車が望ましい。走行中、パンクが生じた場合、強盗被害に遭う危険性が高くなるので、決して路上で停車せず、ホテル、スーパー、ガソリンスタンドなど警備員のいる安全な場所まで

自走すること。

(4) レンタカーなどを利用する場合

レンタカーは各地に代理店があり、ポート・モレスビーではオートマチック車を頼むことは可能だが、ポート・モレスビー以外ではたいていの車がマニュアル車両である。排気量1600ccの「カローラ」クラスの1日あたりの料金は200キナから250キナ程度となっている。

車両は空港での乗り捨てが可能である。運転手の庸上もできるが、1日あたりのチャージはレンタカー業者によって異なるので、確認が必要である。

支払いはクレジットカード(VISA、MasterCard、American Express)でも受け付けている。現金で支払う場合は、たとえばAVISだとセキュリティデポジット2000キナに加え、延滞保証金500キナのデポジットの預け入れが必要である。借りる際には車両の傷やスペアタイヤの空気圧を確認する必要がある。

主要なレンタカー会社は以下のとおりである。詳細はイエローページを参照。



- ・AVIS
- ・Budget
- ・Thrifty
- ・Hertz

(5) 地図

国土地図、市内地図、全国の道路地図などは、日本の国土地理院にあたる政府地図局(Mapping Authority)で入手できる。

7-2 交通事故、盗難

(1) 対処方法

事故を起こした場合は、速やかにその場を離れ、無線などで関係者に連絡、支援を求めると同時に、その足で最寄りの警察署に直行することが肝要である。警察官の立ち会いの上、事後処理に努める。現場にとどまっていると相手側から暴力を受けることがあるので、注意が必要である。

(2) 救急病院

首都のポート・モレスビー市内であれば、Pacific International Hospital(電話: 323-4400)に連絡をとり、救急車を依頼できる。そのほかは、地方の病院に関する情報も含め、「国別医療情報」を参照。

(3) 車両の盗難、車上荒らし

車両の盗難はあとを絶たず、日本人の被害も増えている。駐車、乗降の際には、尾行されたり、不審な人物がいないかなど、周囲の気配を確認し、ドアは必ずロックすること。また、駐車中の車内には貴重品を放置しないこと。このほか、道路封鎖によるラスカル(強盗団)の犯行があり、被害が多発している地域への立ち入り、主要道路を外れた人目の少ない脇道への進入は避けるべきである。ハイランド・ハイウェイは夜間だけでなく、白昼でも犯罪が発生している。

7-3 交通違反

(1) 交通法規

左側通行で、法規は日本と同様であるが、「ロータリーの右側から来る車が優先」「ロータリー内走行車両が優先」の原則があるので留意すること。

横断歩道は「人優先」である。歩行者がかなり無謀な状況で横断する場合もあり、十分に注意して走行する必要がある。夜間は特に注意すること。警笛などで注意を促すことも必要。

市内の最高速度は時速60km、横断歩道、登下校時の学校付近では最高制限速度は時速25kmである。制限速度が60kmの道路でも、付近に歩行者が多い場合は減速しなければならない。減速をせずに時速60kmで走行した場合、スピード違反で処罰の対象となる。

主な英語の標識は次のとおりである。

「Give Way」→「道を譲れ」2つの道が交差するところで相手車線が優先する。

「Keep Left」→「左を通れ」この標識の右側の道に入ってはいけない。

「One Way」→「一方通行」

「Turn Left Anytime With Care」→この交差点はいつでも左折可能だが注意が必要。

(2) 検問、罰金、罰則

ポート・モレスビーでは、警察官と道路安全委員による検問が昼間、夜間を問わず行われている。検問では、車両の登録と安全ステッカー、免許証の期限の確認、車両の整備状況などがチェックされる。特に夜間の検問では、不良警官による悪質ないいがかりを付けて罰金を取り立てることも多い。

交通違反の罰金は、数キナから最高でも60キナである。駐停車禁止違反は5キナ、免許不携帯、無灯火運転は20キナ、市街地でのスピード違反、一時停止違反は30キナ、無登録車両、車検証なし車両の運転は50キナ、不注意運転は60キナとなっている。額自体は少ないが、場合によっては警察署に連行、勾留されるので保釈金が必要となる。保釈金額は警察署によって異なるが、およそ100キナ前後と考えてよい。その場合、罰金の支払い手続きの際、保釈金から罰金を差し引いた残金が返還されるのであるが、罰金を別途払われた上、保釈金も戻らないことがある。罰金は、警察署、裁判所などに設置されているCash Registered Officeで14日以内に支払う義務があり、それを超えた場合は裁判所に召喚されることになる。罰金、保釈金ともに、支払いをした際は、オフィシャルレシートを受け取る。公式な検問では、その場で罰金を払う必要がある。

警察官に路上で罰金の支払いを求められた場合、その場での支払いは運転者側の違法行為となる。不用意な抵抗は公務執行妨害で処罰の対象となるので、支払い以外の警察官の指示には従うべきであるが、支払いを執拗に求められた場合はレシートを要求し、これに応じない場合は、ともに警察署に出頭し、関係者に連絡をとった上で、保釈手続きをするのが妥当である。基本はパプアニューギニアの交通法規を遵守し、違反をしないことである。

7-4 車の修理

(1) 部品

現地で購入した日本車の部品は、少々時間がかかるが入手可能である。日本から持ち込む日本市場向け車両は輸出用とは仕様が異なるので、部品の入手が難しい場合もある。赴任前に確認の上持参することが必要である。ただし、日本の業者を通じて部品などの入手は可能。

(2) 修理工場

一年中エアコン(冷房)を使用すること、一部を除き道路事情が劣悪であるため、日常のこまめなメンテナンスは不可欠である(パプアニューギニア政府官庁の自動車の減価償却期間は3年である)。

エンジンオイルは質がよくないため、交換は必要以上に頻繁に行う(2000kmごとに最低1回は行い、うち2回に1回はフィルターも換えることが望ましい)。またマフラーは比較的早く腐りやすい。行きつけの整備工場を決めて定期的に点検・修理してもらうのがよい。正規のディーラーであれば、割高であるがメーカー指定の消耗品が入手できることもあり、容易に交換などが可能である。安全には代えられないので路上で立ち往生することを避けるためにも(立ち往生は、強盗＝ラスカルの格好の餌食となる)手間・暇・お金をかけて車の状態を良好に保ちたい。

特に日本人のなかには「車は動けばいい」という意見の人も多いが、問題が起こった場合に対処する手段(日本でのJAFなど)がなく、警察力も無いに等しいパプアニューギニアでは、車のトラブルは強盗被害・殺人事件に直結するため、自家用車は常に100%の状態を維持し、事故・故障などを未然に防ぐ必要がある。命あってのモノダネであることを肝に銘じておきたい。

市中の独立系工場の質はさまざまであるが、総じてレベルは低く、あまり信用できない。修理に出して状態が悪くなって返ってくるケースも多い。必要のない部品交換をされる、中古の部品に組み替えられる、規格外の部品を使われたりするということが頻繁に起こっている。日本人経営の修理工場であってもトラブルが発生しているケースも見られるので、整備工場の選択には十分に注意すること。メーカー系ディーラーを中心によく評判を聞き、オーストラリア人など在留外国人の顧客・利用が多いところで、外国人マネージャーが統括し、なおかつ顧客の要望が通じ、すぐに現場に指示が出せる態勢にあるところが比較的安心できる。最近では、工場関係者の手引きによりスペアキーを作られ、車両が盗難されたと推測される事件も発生している。

半年ごとの車検整備の際は、灯火類の確認が主で、指示しない限りブレーキなどは見てもらえないので、不安な部分を記録したものを添えて、修理、点検を依頼すること。また、日常的に自らメンテナンスを行うことが肝要である。日本のユーザー車検程度の整備は経験がなくても非常に容易にできるため、この機会に習得しておくといよい。「ユーザー車検対応自動車整備マニュアル」の類は2000円程度でどこの書店でも必ず複数取り揃えているので、赴任前に購入することを

強く勧めたい。

8. 通信



8-1 電話

(1) 一般事情

携帯電話が急速に普及し、JICA関係者でも固定電話を引いている世帯が減りつつある。

都市、地方都市では電話局、空港、大型スーパーマーケットの周辺に公衆電話が設置されているが、安価(K50～)な携帯電話も販売されていることから、短期滞在でも携帯電話を利用するほうが望ましい。

固定電話の開設には、申し込みをしてから少なくとも3週間ほどかかるため、住居が決まってから速やかに手続きを済ませる必要がある。

固定電話に加入すると、Telikom PNG Ltd が標準の電話機を設置する。都市の電気製品売り場では、ファッション電話やファックス電話なども販売しており、必要に応じて購入し設置することができる。Telikom PNGは、固定電話の他に、ワイヤレスの電話(固定電話の形に似ている)のサービスを開始している。これには、設置費はらず直ぐに使用が可能である。

(2) 国内電話

都市、地方都市では住居への固定電話の設置が可能である。携帯電話も普及が急速に進んでいる。

(3) 国際電話

全国どこからでもダイヤル直通で国際電話がかけられる。固定電話からは、(00)(以前は05) - (国番号) - (地域番号、最初のゼロは省く) - (加入者番号)である。たとえば東京03-0000-XXXXにかけるとは00-81-3-0000-XXXXとなる。

交換手を通す場合は(016)で交換手を呼び出す。相手先などを伝えたあと、いったん切って交換手が折り返すのを待つ。

携帯電話からも国際電話が利用可能であり、+(プラスマーク) - (国番号) - (地域番号、最初のゼロは省く) - (加入者番号)で通話できる。通話料金はDigicel社の場合、1分間1キナ66トヤである。

日本からパプアニューギニアへダイヤル直通で電話するには、(001/0041など国際通信各社指定番号) - (675:パプアニューギニアの国番号) - (加入者番号)となる。

(4) 携帯電話

国内全域でbemobile社とDigicel社が携帯電話サービスを提供している。ただし、両社とも通信方式がGSM方式であるため、日本の携帯電話は利用できない。日本で契約した携帯電話のローミングサービスは機種によるが、NTTドコモ、ソフトバンク、auのすべてで可能である。

プリペイド方式での利用が一般的であり、プリペイドカード(3、5、10、20、50、

100キナ)を購入して利用する。プリペイドカードは、地方都市の小売商店などでも購入できる。

携帯電話機の機能、デザインともに日本のものより数世代程度遅れたものが広く普及しているものの、スマートフォンなどの最新機種も高価ながら販売されている。スマートフォンには、メールやインターネット接続などの機能がついているものもあるが、従量制での利用しかできない。携帯端末はNOKIA、Motorola、Samsung、LGなどが主力となっている。電話機は50～3000キナで購入することが可能である。

8-2 電信

(1) ファクシミリ

ファクシミリは通常の電話回線で利用できる。日本からファクス機を持ち込んでの使用も可能であるが、その場合、変圧器が必要である。ファクス用紙はロール型のA4サイズは手に入る(パプアニューギニアのファクス機は、A4サイズが主流である)が、ロール型で日本のB4サイズ幅のファクス用紙は手に入らない。専用の感熱紙は入手できないため、持ち込みの場合は普通紙ファクス機に限る。

都市部では、ファクス機の購入も可能で、NEC、リコー、キヤノンなどの日本メーカー品が販売されている。

(2) インターネット

プロバイダーは主要なものが3社ある。すべての会社で日本語環境での通信が可能である。関係者の多くは、HiTRON社、Telcom社、Digicel社を使用している。現在のところ定額制はなく、通信料に応じた従量制での契約となる。

HiTRON社は無線アンテナ設置による住宅内への固定配線であり、常時接続として利用できる。個人住宅用の契約は月額基本料が110キナであり、これに通信量に応じた金額(1MBあたり22トヤ)が加算される。固定配線のインターネットサービスは首都が中心であり、地方都市ではほとんどサービス提供されていない。

また、Telikom社とDigicel社がUSBモデムを販売している。通信料金をあらかじめ登録しておくプリペイド方式であり、設定なども比較的簡単である。基本料金は不要で、通信量に応じた料金(1MB40トヤ程度)が課金される。ドライバはWindowsが中心であり、MacはTelikomがサポートしており、OS10.5以上の環境ならば使用可能である。電波塔が故障することがあり、通信が不安定になると数日間繋がらなくなるケースがある。

通信速度は日本と比べると極端に遅く、画像や複雑なWebページの閲覧は困難である。また、途中で接続が切れることもあるため、大きなサイズの更新ファイルなどのダウンロードは控えたほうがよい。

接続サービスの契約であるため、Webメールを利用するのが一般的である。

主要ホテルでは、インターネット接続したビジネスセンターや、プリペイドの無線LAN接続サービスを提供している場合がある。



- ・HiTRON(固定配線)
- ・Online South Pacific(固定配線・家庭用ワイヤレス)
- ・DALTRON(固定配線)
- ・Telecom(USBモデム・家庭用ワイヤレス)
- ・Digicel(USBモデム)

* 料金・サービス内容などは適宜改定されるので、各ホームページで確認のこと。

8-3 郵便

(1) 一般事情

国内・国際郵便とも信頼でき、事故は比較的少ない。書留も扱う。

宅配制度はないので、JICA関係者は私書箱を開設(開設60.40キナ～、年間使用料49.50キナ)するか、JICA事務所の私書箱(P.O.Box 1660, Port Moresby)を利用することになる。

パプアニューギニア～日本間の航空郵便は、両方向とも到着までに約1～3週間を要する。日本から荷物を発送する場合、通常の航空便のほかに国際航空速達郵便(エクスプレス航空便=EMS)がある。値段はEMSの方が安く、web上で発送状況の追跡調査ができるために、事故も少なく信頼が置ける。パプアニューギニアからもこのEMSが利用でき、日本、世界への発送が可能である。なお、日本～パプアニューギニア間の最短日数は4日である。

船郵便は原則として月1回、定期貨物船によって輸送される。所要時間にはかなりばらつきがあり、航路によって3週間～3カ月くらいで、紛失事故が起こることもある。そのほか、比較的割高ではあるがDHL便があり、日本との間であれば最短2日で到着する。

< 日本への郵便代金 >

・通常郵便(はがきサイズ)

0～50g	:6.00キナ
51～150g	:12.00キナ
151～250g	:17.50キナ
251～500g	:60.00キナ

・EMS

～500g	:74.00キナ
500g～1kg	:100キナ
1～1.5kg	:126キナ
1.5～2kg	:152キナ
2～2.5kg	:178キナ
5kg	:274キナ
10kg	:430キナ
20kg	:545キナ

(2) 課税

日本などから送られたものが課税品である場合は、郵便局内のCustomで所定の料金を支払う。特に食品(マヨネーズ、生物など)、CDなどは没収されることもしばしばあり、注意する必要がある。ビデオテープについては、すべてチェックされ、ものによっては課税される。

(3) 国際宅配サービス

DHL、TNTなどは宅配サービスもある。日本から小さい小包などを発送する場合は、DHL、TNTよりEMSが便利であるが、DHL、TNTなどの国際宅配便は税関手続きや余分な経費がかかるものの、紛失は極めて少ない。

代表的な会社は以下のとおりである。



- ・DHL
- ・Federal Express
- ・TNT Air Cargo

DHLを利用した場合、日本までの通常料金は、～500gで73.82キナ、～1kgで102.3キナ、10kgで508.34キナ、20kgで770.94キナ、30kgで992.4キナである。また、DHLには「ジャンボボックス」という安いパックがあり、この箱を使用することにより通常料金より若干安くなる。

< DHLジャンボボックス >

- ・ジャンボジュニアボックス

この箱を使用すると料金が10kgまで557.9キナ、以降1kgにつき31キナ。20kgくらいまで荷物が入れられる。

- ・ジャンボボックス

ジャンボジュニアボックスより大きく、25kgまで996.5キナ、以降1kgにつき31キナ。30kgくらいまで荷物が入れられる。

9. コンピューター



9-1 ハード、ソフト

(1) 調達の方法

IBM、NEC、Apple、COMPAQなどの販売代理店はあるが、ソフト、ハードともに品揃えは少なく割高である。これらのメーカー製品以外にも、デスクトップPCは現地ブランド製品(既成部品組み立て製品)が現地コンピューター販売店(Daltron、Datec、Able)で購入できる。

国際的なブランド製品の場合は、信頼性が高いため故障しにくい反面、一度故障した場合修理のための部品調達に比較的長い時間を見ておく必要がある。一方、現地ブランド製品の場合は、比較的安価な部品を利用している場合もあり、故障しやすい反面、修理は比較的早く済ませることができる。

プリンターは、HPやCanonなどの大手ブランド製品が購入可能である。価格は比較的割高なため、日本から持込む方がお得と思われる。また、トナーなどの消耗品も同様で、できればある程度は日本から購入しておいた方がよい。

現地購入する場合は、コピー・スキャナー・FAXなどの機能がついた小型複合機を購入することもできる。消耗品はHP社のインクジェットが最も入手しやすい。

英語版の基本的なソフト(ワードやエクセル等)は現地で購入可能であるが、特殊なソフトや日本語ソフトは日本から持参する必要がある。ただし、比較的大きな都市(ポートモレスビー、レイ、ココポ、マダン)以外は販売店が稀有であるため、地方都市では購入は難しい。

(2) 使用の際の注意

日本からパソコンなどを持ち込む場合は、現地の電源が50Hz240Vであるため、240Vの対応機種を購入するか、100V~110Vへのステップダウントランスフォーマー(変圧器)が必要となる。変圧器は現地購入できないため、日本から送付するかもしくは前任者から購入する必要がある。

日本から変圧器を購入する際には、プラグの仕様(コンセントはオーストラリア仕様のハの字型)および許容量(接続するPCや周辺機器の総電力量)に注意し、適切な器具を選定する。大容量のものは重量が重いため、パソコンの消費電力をカバーする小型のものを購入することを勧める。

また、地方に限らず都市部でも停電が頻発するため、過電流による故障を防止するための整流装置の購入も推奨される。なお、240Vの過電流防止機能がついた電源タップなどは、現地でも入手可能である。

(3) 修理

都市部のコンピューター専門販売店(Datec, Dalton, Able等)でコンピューター関連製品の修理は可能である。ただし、修復依頼後、障害原因や修復方法を見積もるための作業が行われ、その見積もりを取るための費用(約50キナ程度)が別途必要となる。その見積もりに基づいて最終的な修復(必要部品の購入、その組み込み作業等)を依頼するかどうかを決めることとなる。

10. 職場環境、勤務条件



10-1 職場環境、勤務条件

(1) 就業時間

政府機関の就業時間は、月~金通常8:00から16:06である。残業は普通しない。一斉に昼休みをとる習慣がなく、昼にはスナックやパンなどを少し食べるだけで続けて業務することが多い。

(2) 有給休暇

該当情報なし。

(3) 執務室

専門家の配属先により、パプアニューギニア人数人と執務室を共用する場合もあれば、個室を与えられる場合もある。パソコンの回線(LANや電話回線など)も与えられる。机の間は間仕切りで仕切られていることが多い。

(4) 通勤事情

電車は無く、自家用車もしくはPMVと呼ばれる路線バスで通勤する人が多い。

日本人は安全を確保すべく自家用車の利用が一般的といえる。

11. 出入国手続き



11-1 入国

(1) 空港施設概要

ポート・モレスビーのジャクソンズ国際空港は円借款で建設され1999年に完成、日本の地方空港ほどの規模である。入国審査の列からは、Baggage Claim (預かり荷物引き取り所) や税関が見える。

(2) 入国手続き書類

飛行機のなかで配布される入国カード、税関申告書が必要である。

(3) 入国審査

ビザがあれば「with VISA」の列、ビザがなければ「without VISA」の列に並び、特に質問はないことが多い。

日本でビザを取得している場合は問題ない。入国審査の際にビザをとる場合は、100キナの取得料がかかり、パスポートの有効期限(6ヶ月以上の残存期間)などをチェックされる。

(4) 税関・検てき検査

スーツケースを開けて調べられることが多い。ポルノは輸入禁止である。雑誌のヌードグラビアも見つかった場合はカットされる。植物および動物性食品も没収される。特に肉加工品、卵加工品は持ち込み厳禁。インスタントラーメン、マヨネーズなどは没収される。また、新品の電化製品、ビデオカメラ、カメラなどは購入日と金額を聞かれ、課税されることがある。

近年ではCDやDVDも場合によってはチェックされる。

日本人を中心にアジア系の入国者に対する食料品の持ち込み検査は厳しい。生ものや日本食の持ち込みに対しては特に厳しいので注意が必要である。

(5) 空港内での留意点

税関検査後、パスポートなどの貴重品は速やかに安全な場所に収納することが肝要である。税関検査の場所から出口のドアを出ると、到着ロビーとなる。貴重品は通関スペースで整理し、ロビーには身軽な体勢で臨みたい。ロビーから

空港建物の外に出ると大勢の人に囲まれるため、両手は荷物で塞がれ、手にはパスポートを持っているという身動きがとれない状態にならないよう、十分注意すること。空港建物内は禁煙、吸い殻の投げ捨ては15キナの罰金を請求されることもある。

(6) 出迎え

該当情報なし。

(7) 空港からの主な交通手段

リムジンサービス、ホテルの送迎バス、運転手付きレンタカーを利用すること。タクシーはあまり勧めない。タクシーの場合はメーターの有無(たいていメーターはない)にかかわらず、乗車前に料金の交渉をする必要がある。料金の目安は空港か

らホリデイ・イン・ホテルまで20キナ、クラウンプラザ・ホテルやJICA事務所のあるタウン地区までは40キナである。運転手には英語が通じる。

公共バスPMVの利用は、治安上の問題から厳禁である。

(8) その他の留意点

両替所は通関スペースのほか空港1階ロビーにある。通関スペースが込んでいる場合は早めにロビーに出たほうがよい。

また、国内線乗り継ぎカウンターはあるものの非常に込み合うため、乗り継ぎの場合は、いったん国際線を出て国内線ターミナル(徒歩100m程度)へ移ったほうがスムーズにチェックインできる。ただし建物外へ出るため、強盗、スリ、置き引きなどに注意すること。

待合ロビーには公衆電話があり利用できる。1キナコインかテレホンカードの利用となる。

11-2 出国

(1) 出国時の概要

チェックインカウンターは向かって左側からカンタス航空、ニューギニア航空、Pacific Blue、エアラインPNG航空である。チェックインの後、2階出国フロアに向かい、出国手続き、手荷物検査、待合室と進む。

なお、両替所は1階ロビーにしかないため、換金は出国手続きまでに終わらせること(東京ではキナは換金できないため)。オーストラリアでは空港、市中とも1回500キナまで換金できる。

(2) リコンファーム

リコンファームはしておいたほうがよいが、確実性に乏しいため、余裕をもって空港へ赴き、搭乗券を早めに入手すべきである。リコンファームは1日前まで受け付け可能。

(3) チェックイン

出発3時間前から可能。早めに済ませたほうがよい。

(4) 空港利用税

空港利用料は、航空券購入時に料金が含まれているため、空港で別途支払う必要はない。

11-3 帰国手続き

(1) 帰国時に必要な事務手続き

通常の一般的な日本帰国手続きを行う。

(2) 車の処分

ディーラー、新聞広告、口コミなどを利用して売却することになる。

(3) 家財道具の処分

海送、空送、アナカン、郵送ともにすべて可能。送る前に見積りをとること。パプアニューギニアで処分するには、新聞に広告を出すか、知人、後任者などに譲渡

する方法がある。

(4)住宅の明け渡し

それぞれの賃貸契約により異なるが、2カ月前に申し出るのが一般的である。
不動産会社によっては3カ月前の申し出を要請される場合もある。

(5)外貨持ち出し規制

特になし。

12. 治安、 緊急時の心得



生命・財産に直結すること
でもあり、治安・安全情報に
関しては、各自の責任におい
て最新かつ正確な情報を入
手してください。

12-1 暴動、クーデターなど

(1)一般事情

クーデターの心配はないものの、都市部、農村部ともに、部族闘争による社会的混乱が発生する可能性が高い。デモや社会的混乱に乗じた便乗犯は非常に多いため、社会的混乱時は注意が必要。

(2)対処法

必ず関係者への連絡手段を確保しておく。早期に連絡をとり、指示に従うこと。

緊急時に備え、平素より留意すべき事柄は次のとおりである。

- ・必要最小限のものをスーツケースなどにまとめ、常時持ち出せるようにしておく。
- ・家族全員の10日間ぐらいの生活費、および周辺国への移動に必要な現金を手元に確保しておく。
- ・食料、飲料水、医薬品、燃料などの非常用物資の備蓄。(少なくとも家族全員が10日間のしのげることを目安とする)
- ・ナイフ、ローソク、マッチ、懐中電灯、缶切りなどのサバイバル用品の準備。
- ・自家用車の整備を心がけ、日頃燃料は満タンにしておく。また予備タンク(金属性)を備えておく。
- ・大使館への在留(帰国)届や転居届は必ず行う。

12-2 強盗、盗難

(1)一般的治安状況

窃盗・強盗は日常茶飯事で、スリ・置き引きなど軽犯罪を合わせると治安状況は極度に劣悪である。特に複数で武器(銃器を含む)を利用した犯罪が著しく多いため、防犯対策には慎重を期す必要がある。政府にとっても治安状況の改善は最優先課題となっているが、年々、犯罪件数は増加しており、ポート・モレスビーで報告されているだけで一晩約40件以上に達するときもある。

また、その内容も凶悪化(密造ライフル、軍用小銃などを多用)している。特にラスカル(Rascal, Raskol)と呼ばれる強盗団は、5～十数人の集団で家宅侵入、強盗、窃盗、婦女暴行などを行う。

日本大使館、JICA事務所の再三の注意喚起にもかかわらず、日本人の被

害はあとを絶たない。パプアニューギニア渡航の際には、十分な下調べが重要である。また、JICA関係者も例外ではなく、盗難(自動車盗難なども含む)や空き巣の被害が多い。近年では強盗被害も少なくない現状である。

(2) 住宅の防犯対策

- ・目立たぬ服装をし、華美な生活を慎み、質素な生活を心がける。
- ・女性の場合は、性犯罪防止のため、ノースリーブ、短パンなど露出の多い服装は慎む必要がある。
- ・都市部では防犯体制に実績のある住宅が望ましい。門戸の戸締まりはしっかりと確認し、高層マンションであっても就寝時には窓、寝室を施錠する必要がある。
- ・夜間の帰宅の際は、尾行する車はないか、ゲートに警備員以外の気配はないかをよく確認すること。走行中に徐行、停止をする場合、周囲の状況に十分注意すること。
- ・日中でも、車の乗降の際は周囲に不審な人物がいないか十分注意、確認する。

パプアニューギニアの治安・防犯については「治安・防犯の手引き」(在パプアニューギニア日本大使館)に詳述してある。

(3) 市中での防犯対策

- ・行ってはいけない場所、行ってはいけない時間帯をわきまえる。
- ・不要不急の夜間外出は控える。また、日中でも単独行動は控える。
- ・公共の交通機関(PMVバス)は利用しない。
- ・待ち合わせの際、約束の場所に約束した相手が時間どおりに来ない場合は、その場に長い時間滞らないようにする。
- ・常に周囲を確認し、怪しい雰囲気や認められる場所、人には近づかない。
- ・人込みの中は、スリなどが多発するので特に注意する。

(4) 注意すべき場所、危険地域

- ・ローカルマーケットに行くなら複数で午前中。
- ・バス停など人が多く集まる場所には極力近づかない。
- ・事務所指定犯罪多発地帯には絶対に立ち入らない。
- ・人影の少ない場所も注意が必要。

(5) 被害時の心得

犯罪被害に遭った時は、抵抗をせず犯人の要求に従うこと。抵抗したために殺害されたり暴行を受けたりした例がある。ただし、明らかに婦女暴行目的、殺害目的の場合はこの限りではない。

12-3 火災、風水害、地震

(1) 一般的災害発生状況

1994年9月以降東ニューブリテン州ラバウルの2つの火山が断続的に噴火し、ラバウル旧市街は壊滅状況となった。現在はココボ地区に主要な施設が移転し

ている。風向によって空港が閉鎖されることもある。

1998年には北部沿岸サンダウン州アイタペ地区を中心に津波の被害があったが、この時には日本の緊急援助隊も出動、医療チームなどが活躍した。

また、ニューギニア島北部の大河セピック川は、雨量が多いと氾濫し、河川周辺の住居が床上浸水したり、農地、家畜に被害が出たりする。河川流域では、常に水害の危険にさらされている。このほか、西ニューブリテン州ホスキンス近郊でもパゴ火山の噴火があり、緊急援助隊が出動した。

一度大災害に見舞われると、道路や橋など復旧に数年かかることが通常である。

(2) 防災対策

ポート・モレスビー、レイ、ゴロカはじめ各地域では、部族闘争、暴動、天災、火災などの混乱に備えて食料の備蓄はしておくこと。避難に関しては、隣人からの情報とラジオ、テレビのニュースに注意するとよい。

(3) 被災時の心得

被災した場合は、大使館領事などに緊急連絡を入れるとともに、速やかに警察・病院などに連絡し協力を仰ぐこと。

12-4 緊急連絡先電話番号

日本大使館 : 321-1800

警察 : 000

消防 : 110、325-5188、321-3658

救急車 : 111、323-4400 (Pacific International Hospital)

(警察、消防、救急車はポート・モレスビーの番号。これらは地域によって番号が違うため、要確認)

13. 社交



13-1 風俗習慣

都市部の人々を含め、パプアニューギニアでは日本とは異なり、知り合い以外でも気軽にあいさつをする。また、一度友好関係を築けば、家族、親戚、部族の一員として温かく面倒を見てくれる。

ブアイと呼ばれる、ピンロウジュの実を、ライム、ジンジャー系の香辛料、石灰粉と一緒にかみ合わせるのが、人々のリラックス時の嗜好となっている。しかし、真っ赤になった唾液をあたりに吐くことから、景観を損なうことなどが問題になっている。また、喉頭ガン発生の一因ともいわれている。

13-2 パーティーでの留意点

パプアニューギニア人(現地では自分たちをNational = ナショナルという)を招くパーティーや会食は、治安上の問題もあり、夜でなく昼が一般的である。ピュッフェ、バーベキューなどでもてなすのが適当である。

ナショナルからパーティーに招待された時には、何か一皿食事を持っていくと喜ばれる。その他持参して喜ばれるものは、アイスクリーム、果物、お酒、ビールなどである。

パーティーは時間どおりに始まることもまれにあるが、たいていは遅れることが多い。パーティーなどの席で、食事の開始前にお祈りをする習慣があるのも頭の隅に置いておくとよい。

子どものいる家庭では、子どもの友だちを呼び誕生日パーティーを催すことが多い。昼間、アパートメントのプールサイドや、会員制クラブや会員制公園、レストラン、ディスコなどを貸し切って行う家庭もある。パーティーグッズは、City Pharmacy(薬局)やTheodist(文房具店)などで購入でき、お面や風船なども手軽に手に入る。プレゼントや仮装用品は各スーパーのほか、Brial Bell、Decor Galore(Fu Gui Restaurantそば)等で入手する。

13-3 来客時の留意点

パプアニューギニア人を家族単位で招待する場合は、あらかじめ、その人をよく把握しておくのが賢明である。

基本的にパプアニューギニアの人々はキリスト教徒であるが、その宗派によっては、食べ物に制限がある場合があるので、招待前に食べられないものがあるかどうか聞いておくこともよい。例として、SDA(Seventh Day Adventist教会)は豚肉、貝類、鱗のない魚などは食べない。アルコールも口にしない。

13-4 訪問時の留意点

すべての訪問先が電話などの通信手段が使えるとは限らないので、突然の訪問になることも多いが、事前にアポイントメントをとるほうがよい。手土産の持参は喜ばれる。簡単な日本食や、スナック、ワイン、お酒、ビールが喜ばれる。

女性もお酒を飲む人が多い。女性はワイン、コーラとウイスキーを割ったコークハイなどを、男性は、ビール、ワインなどを好む。

13-5 禁止されている言動(タブー)

高級ホテルや職場での短パン、サンダルばき、公共の場での喫煙。その他、横柄な態度の外国人は反感を買っており、決して見習うべきではない。

喫煙習慣は広くいわたっているが、教養・収入の高いクラスのステイタスシンボルのひとつはタバコを吸わないことであり、灰皿があるからといって断りもなしに吸うと、礼儀知らずと見なされる恐れがある。したがって、人前での喫煙はできる限り避けたほうが無難である。飛行機、官公庁、進歩的なオフィスなどはすべて禁煙ゾーンになっている。

13-6 日本人会

現在、日本人会の活動はポート・モレスビーのみとなっている。会名はJAPOM

(Japanese Association of Port Moresby)、「ポート・モレスビー日本人会」と呼ばれている。名誉会長に日本大使を迎え、大使館関係者、JICA関係者、民間企業関係者で運営されている。

ロロアタ・リゾートアイランドツアー、ソフトボール大会、カラオケ大会等が開催される。理事会は、毎月1回開催され、情報交換が行われる。

会費は年間100キナである。理事は各団体から選出されており、会費などは団体ごとに収集されている。

特に所在地はなく、大黒レストラン、大使公邸などで理事会が開かれる。連絡先はその時の会長、各理事となる。

13-7 JICA帰国研修員同窓会

2002年、Japan PNG Alumni Association が組織された。

13-8 現地の人々との交流

日本人婦人会では、National Woman's Dayに日本食、バザー品などを展示販売し、他国の婦人会と交流を持っている。

スポーツクラブもいくつかあり、そこでは多くの人々と交流することができる。そのほか、ヨットクラブ、ブッシュウォーキングクラブ(ラスカル、レイプなどの被害が絶えないのであまり勧められない)などもある。

スポーツが盛んなパプアニューギニアでは、ラグビー、オーストラリアン・フットボール、ソフトボール、サッカー、バスケットボールなどの現地スポーツクラブに所属し、交流を持っている日本人もいる。週末に試合があり、週に1、2回程度練習がある。

14. 教育



14-1 教育事情

(1) 一般事情

以前は義務教育ではなかったが、現在教育改革が進み、制度的には義務教育となった。保育園・初等・中等学校とも1月～12月の4学期制で、各学期(10週間ずつ)の間に1～2週間の休みがあるほか、夏休みの時期となる年末年始は12月上旬～1月下旬の長い期間が休みとなる。週5日制で土・日は休日となる。

保育園は、一部の施設では1歳半から通園可能である。通園は、週1日から受け付けており、回数に応じて料金設定されているところが多い。就学前教育として1歳半～3歳まではEarly Learning Schoolに、4歳～6歳まではPre-Schoolに通うことになる。主な施設は、Ela Murray International School, Peter Pan, Sunny Bunny, kids World, St. Joseph's international catholic college など。また、1歳半からはデイケアもあり、8時～17時まで食事付でケアをしてくれる所もある(Humply Dumpy他)。

学校制度は、以前は、6年、4年、2年制であったものが、教育改革により、公

立学校では、6歳から入学し、3年 (Elementary School: Elementary Prep, Grade 1-2)、6年 (Primary School: Grade 3-8)、4年 (Secondary School: Grade 9-12) 制に変わった。初等教育を6歳から14歳とし、中等教育 (Secondary School) はGrade9 (日本の中学3年生) からGrade 12 (高校3年生) までとしている。

中等教育卒業後は就職するか、専門学校 (College)、あるいは、大学に進学する。

大学は、

- ・University of Papua New Guinea (UPNG)
- ・Papua New Guinea University of Technology (UNITEC)
- ・University of Goroka (UOG)
- ・Divine Word University
- ・Papua New Guinea University of Natural Resources and Environment (Vudal) in Rabaul
- ・Pacific Adventist University

がある。

Grade12を終了し、選抜された学生が入学する。オーストラリアに留学する学生もいる。日本へ文部科学省留学生として留学する学生も年間数人いる。

(2) 日本人学校

日本人学校はない。1983年6月にポート・モレスビー日本語補習授業校 (Port Moresby Japanese Language School) が設立されたものの、近年、生徒の減少が続き2009年9月から休校。

(3) 現地校、外国人学校

Yellow Page

通常、日本人子弟はインターナショナルスクールに通う。パプアニューギニアのインターナショナルスクールは International Education Agency (<http://www.iea.ac.pg/>) により運営されており、オーストラリアのニューサウスウェールズ州の教育課程を基準としている学校もある。入学資格に特に制限はないが、同基準に達していないと卒業認定されない。Pre-SchoolからGrade12までをカバーしている。

Yellow Page

現在、首都ポート・モレスビーで日本人が通学しているインターナショナルスクールは3校ある (Ela Murray International School: <http://elamurray.com/>、Port Moresby International High School)。

外国人居住者が多い地方都市にもインターナショナルスクールがある。

< 対象年齢と学年 >

Ela Murray International SchoolのEla Siteには、Early Learning Center (幼稚部) があり、18カ月から5歳までの子どもが通う。

Murray Siteは Primary 部、Middle 部に分かれ Primary部はGrade3~6、Middle部はGrade7~9 (日本の中学1~3年生) となっている。

高校は、Port Moresby International High School (POMIS) であり、13~18

歳、Grade8～12(日本の中学2年～高校3年)となっている。

< 授業内容 >

Pre-Schoolでの学習内容は、日本の幼稚園と同様であるが、しつけの概念は薄い。

小学校の授業内容は英語、社会、理科、算数、美術、劇文学、音楽、工作、体育、外国語(フランス語、ドイツ語、インドネシア語)で、最初に英語を勉強する。

英語を母国語としない子弟は英語の個別指導を受けることもできる。また、英語に慣れない生徒に対しては、母親が授業と一緒に参加して子供を助けることも認めている(Ela Murrayのみ)。

日本の中・高等学校に相当するハイスクールの授業内容は、学年により異なっており、Grade7～8は英語、数学、理科、地理、歴史、外国語、工作、家庭学、美術、音楽、体育。

Grade9～10は、必修科目が英語、数学、理科、社会、体育で、選択科目が3科目である。

Grade11～12は単位制で、必要単位数を取得することになっている。

< 費用、設備、行事 >

幼稚園はEla Murray International SchoolのEarly Learning Centerの場合、1年前前払いでは年額23,580キナ、1学期ごとに支払うと合計26,200キナ(いずれも週5日の場合)である。週に通う日数は選ぶことができ、回数により料金が異なる。

幼年部・小学校は年額約2万5千キナとその他制服代、ハイスクールはGrade8が年額約2万キナ、Grade9～10が2万キナ、Grade11～12が2万5千キナのほか、教科書代、教材費、制服代などが必要である(一括の場合は一割引となる)。

学校は整備され、各教室にはエアコンもあり、環境はよい。

学年により修学旅行、学習旅行があり、ケアンズや地方都市へ旅行することもある。

スポーツ大会も盛んで、ポート・モレスビー内のインターナショナルスクール5校が集まり、陸上大会、水泳大会なども開催される。

< 食事 >

昼食は、各自用意し、弁当箱に入れて持参する。

10:30からの休憩、13:00からのお昼と、2回食事する機会があるので(おやつ=スモールランチ/モーニングティー、昼食=ビッグランチ)、2回分食べ物を用意する。スモールランチには、ビスケット、フルーツ、ビッグランチには、サンドイッチなどが一般的であるが、多様性の豊かな環境なので子どもの好みにより食べやすいものを持たせるとよい。

小学校以上では学校にも売店があり、飲み物、食べ物(パン、パイ、ホットドック)を購入できる。

飲み物も各自用意し、麦茶、水、濃縮ジュース、紙パックジュースなどを水筒、

弁当箱に入れて持参する。クラス内に冷蔵庫が完備され、食べ物、飲み物は、冷蔵庫に入れ保管する。

弁当箱、水筒は、ブライアン・ベル・プラザ(4-3(1)参照)で購入できる。

<制服、学用品>

小学校以上は所定の制服があるので、学校の制服売り場で購入する(何種類かの制服が用意されている)。スポーツ用上下、帽子も、所定のものを使用する。図書入れバックも所定のものがある。

かばんは、背中に背負うデイパックが主流である。現地でも安く手に入るが壊れやすい。

学用品は、Theodistという大型文房具店があり(5-2参照)ひととおり購入が可能である。

教科書がすべてオーストラリアの教科課程準拠なので、日本の教科課程に対応させるために、日本の教科書や参考書、副読本などを持参するとよい。なお、大使館を通じ日本の小学校の教科書の配布がある。

14-2 教育関係施設

(1) 図書館など

主な図書館は次のとおりである。

 Yellow Page

・National Library of Papua New Guinea

・Somare Library (PNG大学内)

(2) その他

学校以外の教育施設や遊戯施設はない。会員制クラブ(Yacht Club等)やホテル(Airways Hotel等)は公園を併設しているところもあり、入会費を支払えば利用可能である。

15. 家庭の使用人



15-1 一般事情

日本人のほとんどは、通いの家政婦/夫のみを雇用している。

15-2 運転手

(1) 雇用

賃金が高いため、雇用する人はいない。日本人のほとんどは自分で運転している。英語は日常会話程度を期待できる。

(2) 日常管理

行き先ごとのキロ数、所要時間を把握し、業務日誌をつけてもらうとよい。

(3) 教育指導

行き先ごとのキロ数、所要時間を把握し、業務日誌をつけてもらうとよい。

(4) その他の留意点

該当情報なし。

15-3 家政婦／夫

(1) 仕事の種類と人数

集合住宅であれば1人で十分である。ホテルの長期滞在者の部屋を借りれば、ルームサービスの利用が出来、掃除・洗濯はやってもらえる。それ以外でも、掃除と洗濯が主で、ベビーシッターも可能である。家族での赴任者は週2～4日、単身赴任者は週1回、通いで掃除と洗濯を依頼する人が多い。通常、料理は任せず、料理のアシスタントをしてもらう(任せても日本人向けの味づけは難しい)。英語は日常会話程度を期待できる。

(2) 雇用

契約書作成などの手続きは行っていない場合が多い。近隣や仕事関係者から情報収集して、日本人家庭の経験者を捜すとよい。また賃金や手当についても雇用者の出身国により金額の幅が大きいので、情報収集することが望ましい。

雇用時に、問題が発覚した場合は解雇する旨を明確に言う必要がある。

賃金は、通いの場合1日25キナ程度、住み込みの場合は2週間100～150キナ程度であるが、通いにしている場合が多い。日給制であってもPNGの祝日は有給休暇と考えられることも多いので必要な場合は事前に調整するほうがよい。クリスマスなどにはボーナスとして1～2週間分から1カ月分を支給する。休暇などで長期不在となるときは雇用者都合ととらえられ、給料の半額から全額を払うのが一般的と言われているが、対応としては全額払う人、1/3～1/2程度を保証している人、全く払わずお土産程度で済ませる人等まちまちである。離任時は後任に引き継ぐかどうにかかわらず退職金を支払う。

(3) 日常管理

経験者であっても仕事の内容、作業手順はすべて指導すること。初めて就業する人の場合は、過大な期待をしないことが肝要である。問題があった場合は故意でなくとも明確に指摘し、改善方法を説明する。

パソコン・デジカメ・時計等、彼等が欲しがる物を目に付く所に放置しないこと。又、他人の前で頭ごなしに怒鳴りつけたりしてはならない。許可なしに、親類、縁者を連れてくることは厳禁すること。

また、相手を信頼し友好的な関係をつくり上げることも肝要である。勤務時間が半日を超える場合は簡単な食事を提供する。その他の飲食についても提供可能であれば関係構築に役立つ。ただし、量を指定しないまま雇用者不在時の飲食を勧めると大量に消費するので注意する。

なお、仲間や親戚を使つての嫌がらせや盗みの可能性もあるので、解雇する場合は解雇通告を解雇直前に行うことが大切である。使用人を解雇したあとは、鍵を新しく替えること。

15-4 ガードマン

集合住宅の場合、ガードマンの費用は通常家賃に含まれている。一戸建て住

宅の場合は各自でガードマンを雇用するか、警備会社と契約して派遣してもらう。ただし、生身の人間であるゆえ役に立たないこともあり、ハイテク防犯設備が比較的効果的である。

また犬については賊が対応策を心得ているが、盗人程度であれば、十分役に立つ。パプアニューギニアでは、ドーベルマン、ジャーマンシェパードなどのセキュリティ・ドッグを手に入れることができる(血統書付き子犬が500キナ程度で手に入る)。

16. メディア



16-1 新聞、雑誌

(1) 現地発行の日刊紙

宅配があるのは、「The National」のみ。その他の新聞は、朝、路上の新聞販売員から、または書店などで買うことになる。

・「Post Courier」(英語)

ポート・モレスビー：1部1キナ20トヤ、地方都市：1部1キナ70トヤ。月～金発行。オーストラリア系資本の新聞で最も古い歴史を持つ。

・「The National」(英語)

ポート・モレスビー及びレイ：1部1キナ、地方都市：1部1キナ50トヤ。月～金発行。マレーシア系資本の新聞。

・「Wantok」(ピジン語)

ポート・モレスビー：1部1キナ、地方都市：1部1キナ30トヤ。週1回(木)発行。現地語 トク・ピシン語版新聞。カトリック、ルーテル、英国国教会などの主流教会により運営。

・「Sunday Cronicle」(英語)

ポート・モレスビー：1部1キナ、地方都市：1部1キナ50トヤ。週1回(日)発行。

どの新聞も地方にはポート・モレスビーから空輸するため、半日～1日遅れる。山間部では1週間くらい遅れることもある。

(2) 日本の日刊紙

日本国内では海外新聞普及(株)(OCS)輸出購読サービスに申し込む。

現地で申し込む場合はOCSのシドニー支店に申し込む。宅配可能である。支払いはオーストラリア・ドル建て銀行小切手(Demand Draft、現地銀行で作成可能)を郵送する。連絡先などの詳細は、イエローページを参照。

 Yellow Page

(3) 欧米紙 / 誌

書店でオーストラリアの新聞が入手できる。書店やスーパーなどでは『Newsweek』『The Economist』『The Times』など英文有名紙 / 誌を販売しているが、少々割高であり、常に入手可能か不確定要素がある。直接出版社と年間購読契約などを結ぶほうが割安である。

(4) 日本の雑誌、書籍

現地で日本の書籍を購入できる書店はない。

OCS(日本、オーストラリアとも)では新聞だけでなく、雑誌購読も取り扱っている。上記(2)参照。

16-2 ラジオ

(1)ラジオ放送局

FM局は、ポート・モレスビーおよび地方都市へ向けて放送するNAUFM(英語放送)、YUMIFM(ピジン語放送)の民間のラジオ局のほか、民間FMラジオ局が、セントラル州、ミリンベール州、モロベ州などで開局している。また、NBC(National Broadcast Corporation)から分離したFM100局(英語、ピジン語)もある。NBCも独自のFM局を持ち、東ハイランド州、東ニューブリテン州などで放送を行っている。そのほか、クリスチャンラジオ局(FM局)も開局した。

ほとんどのFM局では24時間放送を行っている。

AM局はNBCが放送を行っている。SW(短波)放送は、NBCが地域に密着した情報を提供している。この放送では、ピジン語、モツ語、トックプレス(地域の言葉)を使用している。

また、ポート・モレスビーでは、緊急時に日本大使館からFM放送で日本人向けに緊急放送を行い、情報を伝える施設が用意されている。周波数は87.5MHzおよび88.5MHzである。

(2)NHKワールド・ラジオ日本(ラジオジャパン)

ラジオジャパンの周波数はよく変わる。放送の冒頭に案内があるので注意すること。時の話題、相撲中継などもある。デジタル式の外国放送受信用ラジオでないと、受信は難しい。短波放送の入るラジオは現地で購入できるが、品質の問題もあり、日本から持参したほうがよい。

< NHKワールド・ラジオ日本問い合わせ先 >

・NHK国際放送局企画編成部

所在地 : 〒150-8001 東京都渋谷区神南 2-2-1

電話 : 海外から : +81-3-3465-1111(平日 / 日本時間 10 : 00 ~ 19 : 00)

日本国内から : 0570-066066(NHK視聴者コールセンター / 24時間受付)

E-mail : nhkworld@nhk.jp

< 周波数表、番組表の入手 >

・URL : <http://www.nhk.or.jp/nhkworld/index-j.html>(周波数表、番組表確認)

・FAX : +81-3-5454-0888 情報番号 260(日本語放送の周波数表・番組表 FAX サービス)

・郵送 : 上記NHK国際放送局企画編成部に請求する。(無料)

(3)聴取可能なその他の外国放送

BBC、VOA、中国語放送をはじめ多くの局が受信可能である。

(4)インターネットのラジオ放送

Radio Australia (<http://www.radioaustralianews.net.au/>) およびRadio New Zealand International (<http://www.rnzi.com/index.php>) のサイトからPNGを

含めた太平洋島嶼国のニュースを聞くことができる。PNG向けにはトク・ピシンの番組もある。サイトから番組のファイルをダウンロードできるほか、iTuneでもダウンロード可能。

16-3 テレビ

(1) 地上波放送局

ローカル局は2局あるが、パラボラアンテナを持つケーブルテレビ会社のサービスを利用すると外国放送が100局以上楽しめる。

ローカル局はEM TV(「エムティーヴィー」と発音)とKUNDU2(「クンドゥートゥ」と発音)という。PAL方式で、朝6:00から夜24:00ごろまで英語およびピジン語で放送されている。EMTVは室内アンテナだけで受信が可能な地上波である。ニュースとコマーシャルが多く、番組の多くはオーストラリアのものであるが、さまざまな現地制作番組も放映するようになってきた。夜18:00から(夜23:00から再放送)のEM TVニュース及び夜19:00からのKUNDU2ニュースは、現地の情報を得るのに最適である。特にポート・モレスビーの様子が中心となって伝えられる。

(2) 衛星放送、ケーブルテレビ

有料で外国放送の有線供給を受ける方法は居住地、アパートにより異なる。

パラボラアンテナを持っていたり、有線供給会社と一括契約していたりするアパートがある。このようなところは申請不要で入居と同時に放送が楽しめる。受信料は毎月家主に支払うところと、家賃に含まれているところとがある。

ポート・モレスビーでは、大手のケーブルテレビ会社2社がケーブルテレビを配信している。

個人で契約する場合は各自有線供給会社に申請する。Hitron(電話:302-2311)とChannel 8(電話:321-7888)の2社が代表的供給会社である。居住区域によって会社が違ってくる。

2011年10月現在、Hitronの接続料は契約チャンネル数によって1ヶ月110.00キナから、Channel 8は接続料1ヶ月143.00キナ、機器レンタル料4ヶ月158.00キナ。

NHKの国際放送(NHK Premium)はHitronとChannel 8のどちらでも視聴することができる。

(3) テレビ受信

日本のNTSC式テレビでは、PALやSECAMは映らない。3方式とも受信したい場合には、マルチシステムのテレビを買う必要がある。Brian Bell等電気店で、21インチの製品が約500~1000キナで販売されている。日本メーカーの製品もあり、サイズも選べる。

パプアニューギニアには映画館はないが、新作のDVDやビデオCDを購入して楽しむことができる。

DVD、ビデオCD再生機も200~1000キナ程度で売られている。日本から持参したDVD、ビデオCDもこれらの機器で再生可能。

17. スポーツ、 趣味、 語学学習



17-1 スポーツ

(1) ゴルフ

【ポート・モレスビー】

ポート・モレスビーにはPort Moresby Golf Club(国会議事堂裏、ニュージーランド大使館並び 電話:325-5367)がある。

料金はグリーンフィーのみ110キナ(ビジター)、キャディーをつける場合キャディーフィー20キナ。コースはアウト9ホール、イン9ホール計18ホールである。クラブハウスにはトイレ・シャワールーム・レストラン・売店・バーがある。

土日は大勢の利用客がいるが、利用の際には複数で行動するなど、注意が必要である。また、平日ではラスカル事件が発生したこともあり、セキュリティを雇う等の安全対策が望まれる。

【地方都市】

ゴルフコースのある地方都市はレイ、マダン、キンベ、ラバウル、ゴロカ、マウント・ハーゲンである。

地方都市は比較的安全で、コースもよく整備されている。芝の状態もよく、安心してプレーできる。

(2) テニス、フィットネス

【ポート・モレスビー】

主なホテルには、テニスコートやジム、プールなどの施設があるが、大使館およびJICA関係者の住居(コンパウンド、アパートメント)には、昨今の住居価格の異常な高騰のため、各施設が整備されている住居に入居しているものは少ない。スポーツクラブやホテルの会員(年間400~2500キナ程度)になれば、施設を無料か格安で利用できる(詳細はイエローページ参照)。

また、テニスについて、Aviat(スポーツクラブ)には日曜日のみ年間80キナで、その場にいるプレーヤーと任意にペアを組んでダブルスのゲームを交替で楽しむ「Social Tennis」というシステムがあり、スポーツクラブの会員になると利用できる。

<フィットネスクラブ>

- ・Aviat Social & Sporting Club
- ・Holiday Inn, Port Moresby
- ・Royal Papua Yacht Club

<テニスクラブ>

- ・Port Moresby Tennis Club

(3) その他のスポーツ

<スキューバダイビング>

【ポート・モレスビー、ロロアタ】

<主な見所>

サンゴは白化しておらず、生き生きと色付いている。

Yellow Page

<ダイビングサービス>

Loloata Island Resort, The Dive Center(日本人インストラクター常駐)

<ベストシーズン>

10月～12月前半

【ワリンディ】

<主な見所>

抜群の透明度を誇り、大型回遊魚やサンゴの群生を見ることが出来る。また、海底に沈んだゼロ戦を見ることが出来る。

<ダイビングサービス>

ワリンディ・プランテーション・リゾート(日本人インストラクター常駐)

<ベストシーズン>

10月～12月前半

【ケビエン】

<主な見所>

抜群の透明度を誇り、大型回遊魚を見ることが出来る。大物が多い。

<ダイビングサービス>

スキューバ ベンチャーズ ケビエン、リセナン アイランドリゾート(日本人インストラクター常駐)

<ベストシーズン>

8月～10月

【マダン】

<主な見所>

魚影が濃いポイントが多い

<ダイビングサービス>

マダンリゾートホテル(日本人インストラクター常駐)、ジャイスアーベンリゾート

<ベストシーズン>

7月～9月

【トゥファイ】

<主な見所>

大型回遊魚や様々な種類の魚、サンゴの群生を見ることが出来る。

<ダイビングサービス>

トゥファイ・ダイブリゾート(日本人インストラクター常駐)

<ベストシーズン>

12月～2月

なお、ダイビング情報詳細は「パプアニューギニア・ダイバーズ・アソシエーション」のホームページ(<http://www.pngdive.com/>)で入手できる。

<その他>

パプアニューギニアでは、以下のスポーツに人気がある。

それぞれ、協会やクラブが多数あり、参加することができる。

- ・クリケット
- ・ラグビー・リーグ(日本でおなじみの"ユニオン"ルールとは異なる方式)
- ・オーストラリアン・フットボール
- ・ヨット、セーリング
- ・フィッシング、トローリング(海釣り)

17-2 趣味

- ・Friday Craft Group

クラフト教室。毎週金曜日の10:00～12:00にEla Beach Towerで開催され、自由参加。欧州系を中心とした主に外国人女性の集まりである。現在は日本人の会員はいない。

- ・All Nations Women's Group

毎月第1火曜にHoliday Innで会合を開催している女性の会。地元の有名人を呼んでの講演、コンサート、工場見学などのイベントを企画して実施する。毎月ニュースレターが配布される。

17-3 語学学習

(1) 語学学習施設

青年海外協力隊新隊員の現地語学訓練を行っているマウント・ハーゲンのHotel Polomanではビジン語の受講ができる。実地体験のためビレッジステイもアレンジしてもらえる。

また、英会話教室はなく、英語を勉強したい場合は、UPNG(パプアニューギニア大学)の公開講座もしくは、知人からレッスンを受けることになる。

(2) 家庭教師

該当情報なし。

18. 観光



18-1 地方旅行の留意点

首都ポート・モレスビーのみならず、地方都市も治安は悪化しており、ラスカルと呼ばれる武装強盗集団に襲われる危険性がある。

このため、「夜間の外出」「1人での行動(昼間でも)」は避けるべきである。

また、地方都市へ旅行する場合、全て飛行機利用となるが、遅延・欠航・荷物の不着は頻発するので、留意が必要である。

18-2 主要観光地・保養地

<海: スキューバダイビング>

ケビエン・ワリンディ・マダン・トゥフィ・アロタウ・マヌスなどが、スキューバダイビングの出来る海として知られている。

白砂のビーチは、ケビエンやラバウル近郊のピジョン島にある。

< 山 >

PNG最高峰のマウントウィルヘルム(Mt. Wilhelm)は、チンプ州に位置する4,509mの山であり、登山道もあって、日本からの登山ツアーも出ている。

山々の緑の景観を楽しむなら、世界ホテル100選に入るとの評判の南ハイランド州のタリにある「アンプアロッジ」で満喫することが出来る。

< 文化 >

パプアニューギニアの伝統舞踊であるシンシン(SingSing)は、「ゴロカショー」・「マウントハーゲンショー」・「エンガショー」などのお祭り(それぞれ年1回)で見ることが出来る。

また、ポート・モレスビーでは、毎月最終土曜日にパプアニューギニアの民芸品を扱った「クラフトマーケット」がEla Murray International SchoolのEla Siteにて開催され、ここでもシンシンを見ることが出来る。

< 船旅 >

パプアニューギニア東部の島々を巡ったり、ニューギニア島北部のセピック川を旅したりする「メラネシアン・クルーズ」を楽しむことが出来る。訪問地では、都市化されていない、昔からのニューギニアの姿を見ることが出来る。

< 生物 >

ポート・モレスビー近郊にある「バリラタ国立公園」では、野生の「ゴクラクチョウ」を見ることが出来る。なお、「ゴクラクチョウ」は、パプアニューギニアの国鳥である。また、ハイランド地方では、野生のランや、希少種の蝶を見ることが出来るようである。

18-3 旅行代理店

多数の旅行代理店がある(詳細はイエローページを参照)。



- ・Westpac Travel
- ・Leisure Holidays & Travel
- ・PNGジャパン
- ・Travel Planners (PNG)
- ・Melanesian Tourist Services
- ・Travel Services

19. 私財の輸送、 引き取り、 購入



19-1 家財道具

(1) 輸送業者

取り扱われ方や、船便の盗難の可能性を考慮して、引っ越し荷物には十分な保険をかけておくことが望ましい。

船便の到着は、日本での船積み後2カ月程度かかるのが通例である。携行荷物の超過料金(エクセス)は非常に高いので、アナカン(別送航空便)の利用

が経済的だが、PNG到着後も取り出すための手続に1ヶ月程度の時間を要するため、これらを検討して利用していただきたい。

(2) 輸入手続き

主な輸送業者は次のとおりである。

・Ansett Wridgeways Removals(電話 :325-5366)

・Hi-Lift(電話 :325-1355)

(3) 輸入貨物の受け取り港

引き取りが遅れるとかなり高額の保管料を徴収されるので注意すること。

19-2 自動車

(1) 一般状況

着任後早急に入手する必要がある。現地では、日本車が市場の95%を占めているが、新車、中古車ともかなり割高である。前任者等から購入するか、もしくは日本から調達し輸送することが可能である。

(2) 車の調達方法について

1) 本邦購送

PNGに着任する多くのJICA関係者は、日本で車を購入し送っている場合が多い。地方(レイ、マダン、ゴロカ、ラバウル)に赴任するSVの方も本邦からPOMに購送し、通関、検疫、登録、保険加入等の手続きを済ませた後、各任地に輸送しているため、任地が地方であっても、本邦購送は可能。

本邦調達の場合、早めに日本から送り出せば、PNGに車両到着後2～3週間で引き取れる。着任後すぐに車を引き取ることを希望される方は、日本からの船便は月1～2回しかないため、着任前に車が任国に到着するよう余裕をもって手配する必要がある。

なお、日本で現在所有している車を輸送することも可能。

故障の際の部品交換を考え、当国で一般的な日本の大手メーカー車両を勧める。

中古車の場合は、十分な整備および消耗部品(バッテリーなど)の交換を済ませた上で輸送されることを勧める。

輸送の際に車の中に荷物を入れて送ることは可能だが、紛失や盗難に遭った場合には、送り主自身が全ての損害を負担することになる。車に荷物を入れて送るかどうかは、このリスクを考慮したうえで判断すること。これまで当地に車を送ったほとんどのJICA関係者は、車に荷物を積んで送っているが、ダンボールに荷物を入れて送った場合には、開けられたり、盗難の被害に遭ったりする可能性が高くなる。車載工具は実際盗難に遭うケースが多くなっている。盗難・紛失のリスクを下げるため、工具等小物も含めてすべて木箱で梱包してから車に積んで送ることを勧める。また、当国滞在中にスチールホイールのキャップは駐車時等に盗まれることが多く、盗難防止のためにはアルミ製のホイールを選択することを勧める。なお、車両に荷物を積載して送付することが可能かどうかは輸送

(販売)業者に最終的に確認すること

2)現地調達

新車は、トヨタ、日産、マツダ、三菱、スズキ、ヒュンダイ、デーウー、フォード等の販売店がある。ただし、手続きから購入まで時間がかかる(2~3箇月)。

中古車の購入は当地でも可能。都市部には、中古車を扱うメーカーのディーラー及び中古車販売店がある。しかし、品質についてはよほど車に詳しくないと見極めるのが難しい。

当地の販売店に輸入を委託する形で中古車を購入することも可能だが、現物を確認せず購入することになるため、性能、価格をめぐってトラブルの原因となる可能性が高く、勧められない。

(3)運転免許証について

現地の免許証への書き換えには国際免許証が必要になる。書き換えは比較的簡単で、半日程度あれば取得可能。

(4)保険、税金

保険には強制保険(Third Party Insurance)と任意保険があり、ともに1年単位である。強制保険の申請は車両登録と同時期に行う。強制保険・任意保険ともに1年ごとに更新が必要で、強制保険は500キナ程度(車両重量による)必要である。強制保険は対人、対物のみであり、すなわち相手の被った損害を補償するためのものである。自分の損害はカバーしていない。

任意保険への加入は必須である。Mitsui Sumitomo Insurance(JICA事務所入居ビル3階)の任意保険は、1台につき年約1,500キナである(車両価格、走行距離によって異なる)。

20. 地方都市



<レイ市>

人口約12万人、パプアニューギニア第2の都市である。ハイランド地方と幹線道路で結ばれており、商業的にも重要な都市である。近年は、ポート・モレスビー並みの犯罪増加に加えて、セトルメントでの部族間闘争が頻発するようになり、安全には細心の注意が必要である。

食料に関しては、日本食にこだわらなければさまざまなものが豊富に揃っている。生活上、娯楽が少ないことと治安の多少の心配をのぞけば、さほど不自由はない。

<マウント・ハーゲン>

西ハイランド州の州都で、ハイランド地域の最大の町。人口約9万。標高1500mほどに位置し、夜間は気温が下がるため長袖などの服装が必要。レイからハイランド・ハイウェイと呼ばれる幹線道路で、ゴロカ(東ハイランド州)、クンディアワ(チンプ州)を経て結ばれている。

ゴロカショーと並んでハーゲン・ショーと呼ばれる伝統舞踏を披露するフェスティバル(年1回(8月下旬))が有名。

<マダン>

ニューギニア島北岸にあるマダン州の州都。人口約9万。マグロの好漁場のあるビスマルク海に面し、町の周辺にさんご礁の美しい海岸が多く、ダイビング客も多い。市内のマーケットでは、海産物が豊富に売られている。マダン・リゾートのそばの露天で売られているマグロのから揚げが有名。

<ココポ・ラバウル>

ココポは東ニューブリテン州の州都で人口約6万。ラバウルは1994年に近郊の火山が大噴火して壊滅的な被害を受けるまで州都だった。ラバウルを中心として、第二次世界大戦中の日本軍の地下基地跡など戦跡が多数ある。ココポには、戦争中の日本軍戦闘機や武器類を展示した博物館(Kokopo War Museum、開館時間は平日9-5pm)がある。博物館の敷地には、戦前ラバウルに在住していた日本人の墓石もある。

Part 3 イエローページ

*特に記載のない限り、事務所周辺の情報が中心になっています。

1. JICA 事務所

名称	JICA Papua New Guinea Office	
所在地	1st Floor, Pacific Place Building, Musgrave St., Port Moresby, NCD, PAPUA NEW GUINEA	
TEL/FAX	TEL: +675-321-2677/2098/2684/2686	FAX: +675-321-2679
URL/E-mail	URL: http://www.iica.go.jp/romania/index.html E-mail: pn_oso_rep@iica.go.jp	

2. 在パプアニューギニア日本大使館

所在地	1st & 2nd Floor, Cuthbertson House, Cuthbertson Street, Port Moresby, NCD, PAPUA NEW GUINEA	
TEL/FAX	321-1800/1483/1305 FAX: 321-4868	

3. 緊急連絡先電話番号

* 警察、消防車、救急車はポート・モレスビー地区の番号。パプアニューギニアでは、これらの番号が地域によって異なるので要確認。

日本大使館	TEL: 321-1800
警察	TEL: 000
消防	TEL: 325-5188, 321-3658
救急車	TEL: 323-4400 (Pacific International Hospital)、325-6822 (St. Johns 病院)

4. ホテル * 室料は近年上昇が激しいため予約前に要確認。

< ポート・モレスビー >

[タウン地区]

■ Crowne Plaza Hotel

Cnr. Hunter & Douglas Sts., Down Town
TEL: 309 3000 FAX: 309 3333
URL: http://www.crowneplaza.com
Single Room: 820+ Tax (Standard) 970PGK+Tax (Executive)
VISA, MasterCard, American Express (Diners not accepted)
JICA 事務所、日本大使館に近い。空港送迎サービスあり。

■ Ela Beach Hotel

TEL: 321-2100 FAX: 321-2434
URL: http://www.coralseahotels.com.pg/elabeach.html
Single Room: 682 PGK ~
VISA, MasterCard, American Express
エラビーチ沿い、アパートタイプあり。空港送迎無料サービス有。

■ Weiqh INN

Spring Garden Road, Konedobu
TEL: 321-7777 FAX: 321-3888
Email: theweighinn@daltron.com.pg
Single Room: 330 PGK ~
VISA, MasterCard

[Waigani地区]

■ Holiday Inn

Waigani Drive, Waigani
TEL: 303-2000 FAX: 325-0837
URL: http://www.holidayinn.com
VISA, MasterCard, American Express (Diners not accepted)
Single Room: PGK792.00 (Standard) 825.00 (Tower) 858.00 (Executive) including Tax
官庁街に近い。空港送迎サービスあり。ホテルは、2つのビルディングに分かれており、一般的な部屋が Garden サイドである。Tower サイドは、いくらか高めであるが部屋がきれいである。

■Lamana Hotel

Waigani City Centre

TEL: 323-2333 FAX: 323-2444

URL: www.lamanahotel.com.pg

VISA, MasterCard, American Express – Diners not accepted

Single Room: PGK 690.00 (Single Deluxe), 715.00 (Twin Deluxe), 950.00 (Executive) + Tax

官庁街に近い。ホテル内にディスコ、スロットマシン場が併設され夜間の治安はあまりよくない。モーテルタイプのホテルのため、レンタカーなどを借りた上での利用が便利。

官庁街に近い。ホテル内にディスコ(入場費 10 キナ)があり、特に週末の夜は騒がしい。

[Boroko地区]

■Comfort Inn

Mairi Place Boroko,

TEL: 325-5091 / Fax : 325-9565

Email: comfortinn_oro@daltron.com.pg

VISA, MasterCard, American Express, Diners Card

Single Room: 405 PGK ~ inc Tax

ボロコ繁華街まで徒歩数分。周囲は住宅街。ゲートに警備員 2 名、ここ数年強盗被害はない由。空港送迎: マイクロバスあり無料。各部屋に TV (ハイロン), 冷蔵庫, エアコン, 天井扇, 電話。朝食は、料金に込み(コーヒー、紅茶、シリアル、トースト)。夕食は、日替わり定食 K30。台所付の部屋は、2階建て長屋。1階にリビング、キッチン、シャワートイレ、2階に寝室。(全室エアコン、天井扇) 3ベッドプラス納戸。官庁街に近い。ホテル内にディスコ、スロットマシン場が併設され夜間の治安はあまりよくない。モーテルタイプのホテルのため、レンタカーなどを借りた上での利用が便利。

■The Shady Rest Hotel

Lot 8, Sect 4, Taurama Road

TEL: 323 0000 / Fax : 323-0060

Email: reservations@shadyrest.com.pg

URL: http://www.shadyrest.com.pg

VISA, MasterCard, American Express

Single Room: 468.00 PGK ~

ポートモレスビー総合病院近し。インド系経営者。ホテル内レストランのインド料理はメニューも豊富にあり、おいしい。ホテル美容室内にビジネスセンターがあり、インターネット用 PC が 2 台ある(営業時間は午後 5 時まで)。

[空港近く]

■Airways Hotel

Seven Mile, Jacksons Parade Jacksons International Airport

TEL: 324-5200 / FAX: 325-0759

E-mail: reservations@airways.com.pg Website: www.airways.com.pg

Single Room: 900.00 + Tax PGK ~

VISA, MasterCard, American Express – Diners Card not accepted

空港近く。長期滞在者用アパートタイプあり。空港送迎サービスあり。ダイビングショップ併設。

■Gateway Motel

Jacksons Parade, NCD, (overlooking Jacksons Airport)

TEL: 327-8100 / FAX: 325-4585

Email: gateway_reservations@coralseahotels.com.pg Website: www.coralseahotels.com.pg

Single Room: 682.00PGK~ including Tax

VISA, MasterCard, American Express

空港に近い。

<レイ>

■Lae International Hotel : 4th Street, Lae, Morobe (レイ市中心部)

TEL: 472-2000 / FAX: 472-2534

Email: Reservations@laeinternationalhotel.com.pg Website: www.laeinternationalhoel.com.pg

Single Room: 550.00PGK~

VISA, MasterCard, American Express, Diners not accepted

■Melanesian Hotel	Lae, Morobe (レイ市中心部) TEL: 472-3744 FAX: 472-3706 Email: Melanesian_reservations@coralseahotels.com.pg Website: www.coralseahotels.com.pg Single Room: 572.00PGK~ GST Inclusive VISA, MasterCard, American Express (3% Merchant Fee Charged) – Diners not accepted
■Lae Travellers Inn	TEL: 479-0411 Fax: 479-0416 Email: laetravellersinn@datec.com.pg Single: 301.00PGK including GST VISA, MasterCard (American Express and Diners not accepted) 空調完備、24時間セキュリティ配置。AVIS レンタカー営業所あり。インターネット不可
■Miles Lodge	TEL/FAX: 475-1355/475-1366 Email: kwinaambang@diacelpacific.com or mileslodgae@gmail.com P.O.Box 4304, 12 Mile, Lae, Morobe Single K70-, Bungalow K250 支払いは現金のみ。 レイとナザブ空港のほぼ中間のハイウェイ沿いにある。簡素なゲストハウスだが、清潔で管理は行き届いている。小さなレストランもある。シングル・ダブルは狭小。別棟のバンガローがお勧め。空港送迎対応可。インターネット不可
<ラバウル>	
■Kokopo Beach Bungalow	Kurur Place, Kokopo Town, East New Britain TEL: 982-8788 FAX: 982-8700 Email: kokopobeachbungalow@global.net.pg Website: www.kbb.com.pg Executive: 550.00、Waterfront Bungalow: 580.00、Waterfront Suite: 620.00 include GST & B/Fast VISA, Mastercard. (American Express & Diners not accepted)
■Kokopo Village Resort Hotel	Williams Road, Kokopo, East New Britain TEL: 982-8070 FAX: 982-9061 Email: Reservation@kokopovillaeresort.com.pg Website: www.kokopovillaeresort.com.pg Single Std: 198.00、Bungalow Deluxe: 440.00、Garden Executive: 506.00、Self Contained: 550.00 (Rates GST Inclusive) VISA, Mastercard, American Express
<マダン>	
■Madang Resort Hotel	Coastwatchers Avenue, Madang マダン市中心部 TEL: 422-2766 FAX: 422-3325 Email: madanresort@mtspng.com Website: www.mtspng.com Single: Standard: 320.00、Deluxe: 518.00、Ex 639.00、(including Tax) VISA, MasterCard, American Express バンガロータイプの Executive は割高だがお勧め。ダイビングショップ併設。セビック川クルーズ船所有
■Coast Watchers Hotel	マダン市内 Kalibobo Drive, Madang TEL: 422-2684 FAX: 422-2716 Email: coastwatchers@coralseahotels.com.pg Website: www.coralseahotels.com.pg Standard 420.00、Premier 523.00 (Rates include Tax) VISA, American Express, Mastercard
■Madang Lodge Hotel & Apartments : Modilon Road, Madang	マダン市内 TEL: 422-3395 FAX: 422-3292 Email: reservations@madanlodge.com.pg Website: www.madanlodge.com Budget Room 99.00, Morata Room 330.00, Garden Terrace 429.00, Executive 495.00 (GST Inclusive) VISA, MasterCard, American Express

<ゴロカ>

■Bird of Paradise

Elizabeth Street, Goroka, Eastern Highlands Province

TEL: 531-3100 FAX: 532-1007

Email: thebird_reservation@coralseahotels.com.pg Website: www.coralseahotels.com.pg

Single: Standard: 396.00, Premier Queen: 520.00 (including GST)

VISA, MasterCard, American Express

空港近く。市内中心部、東ハイランド州政府庁舎隣。

■Pacific Gardens Hotel

Mokara Street, Goroka, Eastern Highlands Province

TEL: 532-4004 FAX: 532-2633

Email: pacifichotel_res@datec.net.pg Website: www.pacifichotel.com.pg

Single: Standard: 295.00 Premier Double: 475.00 (including GST)

VISA, MasterCard, American Express

<マウント・ハーゲン>

■Highlander Hotel

Mt. Hagen, Western Highlands (マウント・ハーゲン市中心部)

TEL: 542-1355 FAX: 542-1216

Email: highlander_reservations@coralseahotels.com.pg Website: www.coralseahotels.com.pg

Standard: 495.00, Premier 605.00, Executive: 660.00 Premier Suite 765.00 includes tax (以上税込み)

VISA, MasterCard, American Express

■Hotel Poroman Lodge

Mt. Hagen, Western Highlands (マウント・ハーゲン市郊外)

TEL: 542-3558 FAX: 542-3312

Email: hotelporoman@global.net.pg

Single Standard: 250.00, Deluxe: 300.00 (Rates including Tax)

VISA, MasterCard

観光ツアー可。青年海外協力隊員の語学研修所でもある。空港送迎あり

<ウェワク>

■Paradise New Wewak Hotel

Wewak Town

TEL: 456-2155 FAX: 456-3411

Single 196.00, Twin 240.00 (税込み)

空港送迎あり。オーナーは日本人で刺身などの日本食も楽しめる。Only Cash and Cheque Accepted

■In Wewak Boutique Hotel

Wewak Town

TEL: 456-2100 FAX: 456-2181

Email: inwewak@global.net.pg

Single Standard: 429.00, Single Budget: 319.00, Deluxe: 605.00 (Rates incl tax) (税込み)

VISA, MasterCard, American Express, JCB Card

空港送迎あり。新規にオープンしたホテルで、外国人客が大半を占める。

■Windjammer Beach Motel

Wewak Town

TEL: 456-2388 FAX: 456-2701 (No email and website)

Rates: 435.00 Executive, 185.00 Standard (including GST)

空港送迎あり。ウェワクの老舗ホテルだが、近年は施設が老朽化している。ビーチフロント。

5.不動産会社

■Credit Corporation

P.O. Box 1787, Port Moresby, NCD

TEL: 321-7066 FAX: 321-7766

E-mail: finance@creditcorporation.com.pg Website: www.creditcorporation.com.pg

■Century 21

P.O. Box 473, Port Moresby, NCD

TEL: 311-2121 FAX: 311-2177

	E-mail: century21@siule.com.pg Website: www.century21.com.pg
■Professionals	P.O. Box 553, Gordons, NCD TEL: 323-6041 FAX: 323-6042 Email: ncd@theprofessionals.com.pg
■L. J. Hooker	P.O. Box 807, Port Moresby, NCD TEL: 320-0738 FAX: 320-0739 E-mail: ljhooker.portmoresby@ljhooker.com Website: www.ljhooker.com
■DAC Real Estate	PO Box 2030, Boroko, National Capital District TEL: 325-0822 FAX: 325-0999 E-mail: dac_re@online.net.pg
■STRICKLAND REAL ESTATE	PO Box 1581 Boroko, MacGregor St (Opposite AON Haus) Port Moresby TEL: 320-0944 FAX: 320-0899 Website: www.sre.com.pg Email: info@sre.com.pg
■NAMBAWAN SUPER LIMITED	PO Box 483, Port Moresby, Level 6 Era Rumana Building, PT MORESBY TEL: 309-5200 FAX: 321-3421 Email: nspom@nambawansuper.com.pg

6. レストラン

【ポート・モレスビー】

< 独立系レストラン >

【タウン地区】

■Daikoku Restaurant(日本料理、鉄板焼)	SVS Harbour City 2 階 TEL: 321-0255 昼食は月～土 12:00～14:00、夕食は日曜除く毎日 18:00～21:30 個室(座敷)やカラオケ・宴会用の大部屋あり。
■Asia Aromas(中国料理・タイ料理)	Town, Steamship Plaza 内 TEL: 321-4780 月～金 9:00～22:00、土曜 11:00～14:00、17:30～22:00、日曜 10:00～14:00 人気店で、大人数の場合は予約が必要。駐車場はなく、夜間の単独行動は危険。JICA 事務所から徒歩圏。
■Rick Shaw's Restaurant(中国料理)	タウンの Bank South Pacific 斜め向かい TEL: 320-1333 昼食 10:30～14:00、夕食 18:00～22:00、毎日営業。JICA 事務所から徒歩圏
■Royal Papua Yacht Club(洋食)	コネドプの Royal Papua Yacht Club 内 TEL: 321-1700 昼食は毎日 09:00～22:00、夕食は 17:30～21:00、月曜の夜定休 ヨットクラブ会員のアテンドが必要
■Sea View Restaurant(中華)	Ela Beach の Mobile ガソリンスタンド側。 TEL: 320-0955 昼食は毎日 11:00～14:00、夕食は 17:30～21:30、日曜は夜のみ営業。
【ボロコ地区】	
■Seoul House(韓国料理) - Hubert Murray Highway - 5 Mile	5 マイル交差点近く TEL: 325-2231、325-2078 FAX: 325-1929 昼食は月～金 10:00～14:00、夕食は毎日 17:30～22:00 土・日は夜のみ営業 個室あり。

【ワイガニ】

■Ten(日本料理)	ワイガニ官庁街入り口。Vision City 内 1 階。 TEL:302-8566 昼食 11:30 ~ 14:30、夕食 18:00 ~ 22:00、火曜日休業
------------	--

【ゴードンズ地区】

■Fu Gui Village(中国料理) 323-0188	ゴードンズダルトルン。ブライアン・ベル・ホームセンター付近 TEL:323-0188 昼食 10:30 ~ 14:30、夕食 17:30 ~ 22:00、毎日営業 土日昼は飲茶あり。駐車場あり。ディスコ「ソングバード」併設。 日曜は飲茶あり。
■Phoenix Restaurant(中国料理、四川料理)	ゴードンズ、Kennedy Road TEL:311-2901 昼食 09:00-14:30、夕食 17:00-21:00
■JEPELLO RESTAURANT(イタリアン)	No. 2 Croton St Off Waigani Drive, PT MORESBY 昼食は月~金、夕食は月~土 TEL: 323-6800 Lunch: 12:00 ~ 14:00、Dinner 18:00~22:00

< ホテル内レストラン >

■Rapala Grill Restaurant(洋食)	Crowne Plaza Hotel 内 TEL:321-2266 朝食 6:00 ~ 09:30 (土・日 6:30 ~ 10:00) 昼食はない、夕食 18:30 ~ 22:00 毎日営業
■The Café(洋食)	Crowne Plaza Hotel 内 TEL:321-2266 朝食 6:30 ~ 10:00、昼食 11:30 ~ 14:30、夕食 18:30 ~ 21:30、毎日営業 世界のさまざまな料理のピュッフエ。
■Gecko Bar(洋食)	Holiday Inn Hotel 内 TEL:303-2986 (Direct Line)、325-5955 昼食 06:00 ~ 10:00(土・日 6:00~10:30)、Lunch: 11:30~14:30 夕食 15:00 ~ 21:30、毎日営業
■Kopi Haus(洋食)	Holiday Inn Hotel 内 TEL:303-2000 B/Fast: 06:00 ~ 10:00、(土・日 6:00~10:30)毎日営業 Lunch: 11:30~14:30、Dinner: 15:00~21:30
■Beachside Brasserie(ピザ、洋食)	エラビーチ沿い、Ela Beach Hotel 内 TEL:321-2100 6:00 ~ 22:30、毎日営業 ピザのテイクアウト可
■Palazzo Restaurant(洋食)	ワイガニドライブ沿い。計画モニタリング省裏、Lamana Hotel 内 TEL:323-2333 朝食 6:00 ~ 10:00、昼食 12:00 ~ 14:00、夕食 18:00 ~ 22:30、毎日営業
■Airways Hotel Bacchus Restaurant(洋食)	空港近く。Airways Hotel 内 TEL:324-5261 朝食 No Breakfast、昼食 12:00 ~ 15:00、夕食 18:00 ~ 22:00、毎日営業
■Airways Hotel Poolside Restaurant(洋食)	空港近く。Airways Hotel 内 TEL:324-5261 朝食 06:00 ~ 10:00、昼食 11:30 ~ 15:00、夕食 17:00 ~ 22:00、毎日営業
■Wild Orchid(洋食)	空港近く。Gateway Hotel 内 TEL:325-3855

	朝食 6:00 ~ 10:00、W/End: 06:00~10:30、昼食 12:00 ~ 14:00、夕食 15:00 ~ 22:00、毎日営業
■The Cellar Restaurant(洋食)	
	タウラマ。The Shady Rest Hotel 内
	TEL: 323-0000
	朝食 6:30 ~ 10:00、昼食 10:00 ~ 14:00、夕食 14:00 ~ 22:00、毎日営業 要予約。
■Rattle and Hum(ピザ、スパゲティなど)	
	空港近く。Gateway Hotel 内
	TEL: 325-3855
	10:00 ~ 22:00、毎日営業

7.食料品

■SVS Foodland Harbour City	
	Harbour City, Konedobu
	TEL: 321-4444 (Harbour City)、321-1111 (Koki)
	毎日 8:00 ~ 20:00
	外国人の多くが利用している。コキ、タウラマ、レイ、ラバウルにチェーン店を持つ。
■R.H.Hypermarket	
	ゴードン。Brian Bell Home Center そば。Grand Palace レストラン下。品揃え豊富
	Lot 1, Section 479, Kennedy Road, Gordon
	PO BOX 3655, Boroko, NCD
	TEL: 675 325-1122 / 2265
	Opening Hours: 08:00~19:00 Daily
■Boroko Food World	
	ボロコドライブ
	TEL: 325-7566
	月~金 8:00 ~ 19:30、土・日 8:00 ~ 19:00
	空港からタウンに行くハイウェイ沿いにあり、数種類の日本食品がある。肉類、ソーセージ、ハム類が充実。店内にファストフードの店あり。
■Vision City	
	Megamall, Waigani Drive, PO Box 3655, Boroko, NCD
	TEL: 302-8511 FAX: 302-8522 Email: info@rhtrading.com.pg
	毎日 8:00~21:00
	ワイガニ官庁街入り口にできた大型ショッピングモール。スーパーマーケットのほか、ファストフード店、日本レストランなどがある。
■J-Mart	
	Erima, Hurbert Murray Highway.
	TEL: 323-8899 FAX: 323-7788 Email: enquiry@imartong.com
	毎日 7:00-19:00
	空港の入り口付近にある。
■Stop'n Shop タウン、ボロコ、ワイガニドライブ沿いなど	
	TEL: 322-0430 (タウン)、322-0374 (ボロコ)、325-1517 (ワイガニドライブ)
	月~土 8:00 ~ 20:00、日曜 8:00 ~ 18:30
	Steamships 系のパプアニューギニア最大のチェーンストアである。タウン、エラビーチ沿い、ワイガニドライブ沿いなど、ポート・モレスビーに 7 店舗ある。
■Papindo レイほか	
	TEL: 472-3322/3001
	毎日 8:00 - 18:00
	レイを中心に全国に 15 のチェーン店を持つ。

8.生活用品

< 食器・調理器具、家電 >

■Brian Bell Plaza (ブライアン・ベル・プラザ)	
	ボロコ。専用駐車場あり。
	TEL: 325-5411
	月~金 08:00 ~ 17:00 Weekdays、土 08:00 ~ 13:00 (Boroko) - Weekends
	周囲は非常に治安が悪いため、店内でのスリなどに十分に注意。

レイ (TEL: 472-3200)、マダン (TEL: 422-1899)、ゴロカ (TEL: 532-1622)、マウント・ハーゲン (TEL: 542-1999)、ココボ (TEL: 982-9027) に支店がある。

- Brian Bell Home Centre (ブライアン・ベル・ホームセンター)
 ゴードン。家具、家電、家庭用品等品揃え豊富。
 TEL: 325-8517
 月～金 8:00～19:00、土 8:30～15:00

- Courts ゴードン
 TEL: 302-5808 (ゴードン)
 月～土 08:00～17:00、日曜 09:00～17:00 Saturdays, 10:00～15:00 (Sundays)
 レイ (TEL: 472-4800)、マダン (TEL: 422-0175)、ゴロカ (TEL: 532-3232)、マウント・ハーゲン (TEL: 542-0844)、ココボ (TEL: 982-5007) に支店がある。

< 文具 >

- Theodist ワイガニ (ポート・モレスビー) およびレイ
 TEL: 325-6500 (ワイガニ)、472-5488 (レイ)
 08:00～17:00 Weekdays, 08:30～12:00 Saturday 毎日営業
 文房具などの事務用品、事務機などの販売が中心

9. 美容院、理髪店

- NU-IMAGE LTD
 Vision City 1st Floor, PO Box 4644, Boroko, NCD
 Pheonix レストラン横, Kennedy Rd Gordons, PT MORESBY
 TEL: 325-0865 FAX: 323-9389
 Opening Hours: 09:00～19:00 Daily
- Maxine's Hair Salon
 PO Box 2015, Port Moresby, NCD
 Holiday Inn Hotel 内, Waigani Drive, PT MORESBY
 TEL: 325-6141
- In Style Hair & Beauty Salon
 PO Box 7289 Boroko
 Airways Hotel 内, PT MORESBY
 TEL: 325 5370
 Opening Hours: 07:00～16:45

10. 銀行

- ANZ Bank
 Ground Floor, Pacific Place Building, JICA 事務所入居ビル 1 階
 TEL: 321-1079、(顧客係・国内)、(顧客係・海外) FAX: 322-3377
 Website: www.anz.com/Png
- Westpac Bank
 Westpac Building, Douglas Street, Port Moresby
 TEL: 322-0700、FAX: 322-4407
- Bank of South Pacific
 Musgrave St, Port Moresby
 TEL: 322-9790 FAX: 321-2626
 Website: www.bsp.com.pg/ E-mail: servicebsp@bsp.com.pg

11. レンタカー会社

- AVIS Jackson's Airport, Port Moresby
 TEL: 325-8299 FAX: 325-3767
 Website: www.avis.com.pg/ E-mail: sales@avis.com.pg
 ポート・モレスビー、レイ、ゴロカ、マウント・ハーゲン、ラバウル、キンベ、マダン、ウェワク、Mendi、Manus、Vanimo、Buka に支店あり。
- Hertz Jackson's Airport, Port Moresby
 TEL: 325-4999 FAX: 325-6985
 Website: www.leaseMASTER.com.pg/ E-mail: sales@leaseMASTER.com.pg
 ポート・モレスビー、レイ、マウント・ハーゲン、ゴロカ、ラバウル、キンベ、マダン、ウェワク、Lihir、Kavieng、Lorengau に支店あり。

■Budget Gateway Hotel, 7 Mile, Port Moresby
 TEL: 325-4111 FAX: 325-8293
 Website: www.budget.com/ E-mail: budget@coralseahotels.com.pg
 ポート・モレスビー、レイ、ゴロカ、マウント・ハーゲン、ラバウル、キンベ、マダン、ウェワク、パニモ、Kavieng、Alotau、Tokua、Popondetta、Tabubil、Manus に支店あり。

■Thrifty Lamana Hotel, Waigani
 TEL: 325-5550 FAX: 323-2444
 E-mail: thrifty@lamana.com.pg
 ポート・モレスビー、レイ、マウント・ハーゲン、マダン、ラバウル、キンベに支店あり

12. インターネット・プロバイダー

■Data Nets, Online, South Pacific
 A-One Haus 内。タウン、クラウンプラザホテル近く
 TEL: 320-0633 FAX: 320-0611
 URL: <http://www.online.net.pg> E-mail: sales@online.net.pg

■DALTRON ゴードンズ, Cameron Road 沿い
 TEL: 302-2200 FAX: 325-6558
 URL: <http://www.daltron.com.pg> E-mail: sales@daltron.com.pg

■Global Internet コネドブ
 TEL: 321-4322 FAX: 321-4167
 URL: <http://www.global.net.pg> E-mail: info@global.net.pg

■Datec ワイガンドライブ沿い、新聞社 National 隣
 TEL: 303-1333 FAX: 325-9066
 URL: <http://www.datec.com.pg>

■HT PNG ゴードンズ
 TEL: 325-7477 FAX: 325-1820
 Website: www.htpng.com.pg

13. 国際宅配サービス会社

■DHL 6 マイル、グランビルモーター隣
 TEL: 325-9866
 08:00 ~ 17:00

■Federal Express コネドブ
 TEL: 321-4606 FAX: 320-1263
 08:00 ~ 17:00

■TNT Air Cargo 空港近く、Hertz レンタカー本社前
 TEL: 325-2411 FAX: 325-4738
 08:00 ~ 17:00

14. 教育機関

< 日本語補習授業校 > 2011年10月現在休校中

■Port Moresby Japanese Language School
 c/o Embassy of Japan
 Cuthbertson House, Cuthbertson St., Port Moresby (P.O.Box 1040, Port Moresby 121)
 TEL: 321-1800 FAX: 320-4868
 対象学年: 幼稚園 ~ 高校3年生
 毎週金曜日 16:30 ~ 18:30

< インターナショナルスクール >

■Port Moresby International High School
 East Boroko
 TEL: 325-3166
 Email: enquiries@omis.iea.ac.pg
 対象学年: Grade 7 ~ 12 (日本の中学2年 ~ 高校3年)
 対象年齢: 13 ~ 18歳
 使用言語: 英語

■Ela Murray International School, Ela site

エラビーチ沿い
 TEL: 321-4720
 E-mail: elabeach@iea.ac.pg
 対象学年: Pre-School
 対象年齢: 4～5歳
 使用言語: 英語

■Ela Murray International School, Murray Site

ボロコドライブ沿い、ボロコ United Church 隣
 TEL: 325-2183
 E-mail: murray@iea.ac.pg
 対象学年: Pre School～9(日本の幼稚園～中学校3年)
 対象年齢: 6～14歳
 使用言語: 英語

■KOROBOSEA - BOROKO EAST INTERNATIONAL SCHOOLS

Boroko Campus(幼児～小学低学年)
 TEL: 325-5037
 Email: mmomak@koroboro.iea.ac.pg
 Korobosea Campus(小学校学年～中学2年)
 TEL: 325-5358
 Email: alaulama@koroboro.iea.ac.pg

15.図書館

■National Library of Papua New Guinea

Independence Drive, Waigani, National Capital District
 TEL: 325-6200
 月～金 9:00～16:00、土曜 9:00～13:00、日曜 13:00～16:00

■Somare Library (PNG 大学内)

ワイガニドライブ、パプアニューギニア大学内
 TEL: 326-7464
 月～金 9:00～16:00、土日 9:00～13:00

16.日本の新聞・雑誌の購読

■海外新聞普及(株)(OCS)輸出購読サービス

〒108-8701 東京都港区芝浦 2-9-13
 TEL: 03-5476-8131 FAX: 03-3453-8091
 URL: <http://www.ocs.co.jp/> E-mail: subs@ocs.co.jp

■OCS (Australia) Pty. Limited

P.O. Box 539, Mascot, N.S.W.2020, Australia
 TEL: +61-2-9313-2383

17.スポーツ施設

 <ゴルフ場>

■Port Moresby Golf Club

国会議事堂裏、ニュージーランド大使館並び
 TEL: 325-5367
 グリーン FEE165 キナ(ビジター)、キャディー FEE20 キナ

 <フィットネスクラブ>

■Royal Papua Yacht Club

コネドブ
 TEL: 321-1700
 ヨットクラブ会員券必要。

■Aviat Social & Sporting Club

P.O. Box 91, Konedobu, National Capital District
 TEL: 321-4261 FAX: 321-2083

入会金など 121 キナ、年会費 180 キナ程度。年の途中での入会は年会費が割引かれる(60 キナ/4 カ月)。テニスコート利用は、メンバーでも別途料金がかかる。

Individual Membership: 618.00、 Family Membership: K1,079.00

■Holiday Inn, Port Moresby

P.O. Box 1981, Boroko, Waigani Drive, North Hohola, National Capital District

TEL: 303-2000 FAX: 325-0837

< テニスクラブ >

■Port Moresby Tennis Club

東ボロコ

TEL: 325-1421

< ダイビング >

■The Dive Center

P.O. Box 1488, Port Moresby, Konedobu 内

TEL: 320-1200、 Email: divecentrepng@gmail.com、 Dive Fee: K295.00 – Day Trip

料金: 120.00 キナ/2 本(1 本の場合は 60.00 キナ)、 165.00 キナ(機材レンタル込み)/2 本

18. 語学学習施設

■Hotel Poroman Lodge

P.O. Box 1182, Mt. Hagen, Western Highlands

TEL: 542-3558、 FAX: 542-3312/542-1602

19. 旅行代理店

■PNG ジャパン

(Gateway Hotel 内)

P.O. Box 2753, Boroko, National Capital District

TEL: 323-2103/323-1321、 FAX: 327-8125

Email: pom@png-japan.co.jp / pngjapan.pom001@gmail.com

協力隊員 OB がマネージャーを務め、そのほかにも日本人スタッフがいる。空港での出迎え、見送り、乗り継ぎ補助等サービスあり。

■Travel Services Limited

PO Box 3220, Boroko, National Capital District

TEL: 320 2468、 FAX: 320-2666、 Email: admin@travelservices.com.pg

Harbour City にある Super Value Store ビル2階。大黒レストランに隣接している。航空券の手配をメール注文可。

■Melanesian Tourist Services

P.O. Box 707, Madang

TEL: 422-2766 FAX: 422-3325

マダンリゾートホテル、マラガンロッジ、客船メラネシアン・ディスカバラー号、ニウギニ・ダイビング・アドベンチャーの予約など。